

建築学部 建築学科 かおりデザイン専攻

学士課程教育プログラム

1. 大学の目的

本学は、教育基本法並びに建学の精神と理念に則り、深い専門の学芸の教育研究を通じて、豊かな教養と専門的能力を有する質の高い職業人を育成し、社会と産業の発展に寄与することを目的とする。

2. 建築学部の教育研究上の目的

建築学部は、豊かな教養及び工学に関連する基礎から応用までの十分な学問的知識を有し、創造力に富み主体的に行動できる質の高い専門職業人を育成するとともに、工学を中心とする分野の深い研究を通して新たな知識を創造することを目的とする。

3. 学科の目的

建築学部建築学科は、都市環境及び生活環境の創造・生産・維持活動に関する知識と技術を有し、豊かな人間性を備えた人材を育成するとともに、建築学に関する様々な分野の深い研究を通して新たな知識を創造することを目的とする。

4. 建築学科 かおりデザイン専攻の教育の目的

建築学科かおりデザイン専攻の教育の目的には、教養力の育成と専門力の育成があります。

教養力の育成とは、本学在学中はもとより、社会人として活動するために必要な基礎力の鍛錬と人格を含めた自己形成がその主な内容となります。命の大切さを知り、われわれを取り巻く社会や自然、さまざまな文化活動について、幅広い学問領域の学識の一端に触れることで課題を発見し、主体的に考え、必要に応じて自ら行動できる人間力の豊かな人物を養成します。仲間とコミュニケーションをはかり、協働し合い、自分で自分を磨き上げる苦労を喜びへと促します。

専門力の育成とは、環境の健康と快適性に密接に関係する「におい・かおり」について基礎知識を身に付け、「におい・かおり」の視点から安全で快適な生活環境をデザインできる力を修得することです。

心豊かな生活を営むためには、心と身体が健全であることが不可欠です。そのためには、私たちを取り巻く生活環境も安全かつ快適でなければなりません。「におい」という言葉を聞くと、悪臭が連想され、悪いイメージを抱く人が多いと思いますが、古くは色の際立ちや美しい様を言う言葉として使用されていました。かおりデザイン専攻では、「におい」が元来持っていた意味を大切にし、生活環境の質を高め、生活を彩る要素としての「におい・かおり」の基礎知識を身に付け、建築における「におい・かおり」の持つ役割について学びます。不快なにおいを制御するとともに、かおりを有効活用し、安全で快適な生活環境がデザインできる力の修得を目標としています。そのために、生活を支える建築、住まい、食、生活環境について学び、さらに人の心と身体の健康、食、生活で使用する機器、住まいや街などとおいの関係を学びます。

かおりデザイン専攻の専門の学び分野を大きく分けると、「生活環境学」「におい・かおり測定・評価（測定・評価）」「におい対策（臭気対策）」「かおりの創造・活用（調香技術）」「人の心・身体と香りの関係（生理・心理）」「総合」の6分野、建築士受験資格に関係する「建築士関連」のほか、「キャリア構築系」、「プレゼンテ

ーション技術系」の9分野です。

修得できる具体的な内容は、次の通りです。

1. 嗅覚の特性に関する専門知識と、におい・かおりを測定・評価する基本的な力を取得する。
2. におい物質、香料、人の心と身体に関する専門知識と、におい対策手法とかおり活用能力を取得する。
3. におい・かおり空間をデザインするために必要な空間を構成する要素と環境要素に関する専門知識を取得する。
4. 調査・実験データから客観的・論理的ににおい・かおり環境を考察し、より良いにおい・かおり環境の実現に必要な事項を整理し、改善点を提案する力を取得する。
5. 人とにおいの関係を考慮し、におい・かおりの視点を取り入れたその時々で相応しい生活環境を創造する力を取得する。

5. 学位授与の方針

大同大学の学士の学位授与の方針は以下の表-1 の a, b, c, d の 4 つです。内容は 5.1 で詳述します。建築学科かおりデザイン専攻では、この 4 つの方針それぞれに関して、専攻での学習内容に沿って複数の学位授与方針（合計 12 個）を設定しています。内容は 5.2 で詳述します。

表-1 大学の学位授与方針と建築学科かおりデザイン専攻の学位授与方針の関係

大学の学位授与の方針	a		b			c				d		
建築学科かおりデザイン 専攻の学位授与方針	a1	a2	b1	b2	b3	c1	c2	c3	c4	d1	d2	d3

5. 1 大学の学位授与の方針

大同大学の学士の学位は、以下の 4 つの力を身につけている者に授与する。

a. 社会人として活動するために必要な基礎的な能力を身につけている

健全な倫理観に基づき、規律性をもって主体的にかつ目標を定めて行動する力、現状を分析して目的や課題を明らかにする力、他者と協働するためのコミュニケーション力を身につけている。

b. 豊かな教養を身につけている

教養ある社会人に必要な文化・社会や自然・生命に関する一般的知識を身につけ、異なる思考様式を理解する態度と力を身につけている。

c. 確かな専門性を身につけている

自らの専門分野の基礎から応用までの理論・概念や方法論に関する知識を身につけ、当該分野の情報・データを論理的に分析し、課題解決のために応用する力を身につけている。

d. 豊かな創造力を身につけている

獲得した知識・技能・態度を総合的に活用し、自由な発想の下、独自に工夫・応用し、新たな知見を創造する力を身につけている。

5.2 学科(専攻)の学位授与の方針

建築学科かおりデザイン専攻では、以下の学位授与方針を満たした者に学位を授与します。

a1. 社会人として活動するために必要となる基礎的な知識や技能を身につけている。

社会人として活動するために身につけておくべき基礎的な知識や技能は、レポート・論文の作成、プレゼンテーション、他者とのコミュニケーション、健康管理、PCを使ったデータ処理など、多岐にわたります。人間科学科目群Aグループにおいては、初年次教育、外国語科目、スポーツ実技、DX科目等を開講しており、これらの科目を通じて社会人として基礎となる知識や技能を学びます。また、各学科・専攻により独自に開講している科目もあります。なお、この項目 a1 と次の項目 a2 は互いに密接に関連しており、両方とも身につけることで「社会人として身につけるべき基礎的な能力」が完結します。

a2. 正しい現状分析や健全な倫理観に基づき、主体的に課題や目的を明らかにする力を身につけている。

身につけた知識や技能を仕事や研究の現場で活用するためには、主体的な姿勢で課題や目的を明らかにする力が必要になります。また、現状を正しく分析する力や健全な倫理観を持つことも必要です。人間科学科目群Aグループにおいては、初年次教育、外国語科目、スポーツ実技、DX科目等を通して、現状を正しく分析する力、健全な倫理観、主体的に課題や目的を明らかにする力を学びます。また、各学科・専攻により独自に開講している科目もあります。なお、この項目 a2 と前の項目 a1 は互いに密接に関連しており、両方とも身につけることで「社会人として身に付けるべき基礎的な能力」が完結します。

b1. 歴史・文化・こころの理解に関する一般的知識およびそれをもとに思考する力を身につけている。

現代社会ではさまざまな情報が氾濫しています。これらに惑わされることなく正しい情報を見極めて良識をもって行動するためには、「教養ある社会人」として歴史や文化、社会のしくみ、自然科学などに関する一般的知識を正しく身につけ、さまざまな思考様式を理解する態度と力を身につけている必要があります。また、仕事等の実用面のみならず、今後の人生を充実したものとするためにも「豊かな教養」を身につけることは大切です。

「歴史・文化・こころの理解」に関する一般的知識には、歴史学、文学、哲学、心理学などが含まれます。人間科学科目群Bグループにおいては、歴史・文化・こころの理解に関する一般的知識およびそれをもとに思考する力を学びます。また、各学科・専攻により独自に開講している科目もあります。なお、社会人としての「豊かな教養」を身につけるために、項目 b1、b2、b3 はできるだけ偏りを作らずに修得することが望まれます。

b2. 社会のしくみに関する一般的知識およびそれをもとに思考する力を身につけている。

「社会のしくみ」に関する一般的知識には、政治学、経済学、法学、社会学などが含まれます。人間科学科目群Bグループにおいては、社会のしくみに関する一般的知識およびそれをもとに思考する力を学びます。また、各学科・専攻により独自に開講している科目もあります。なお、社会人としての「豊かな教養」を身につけるために、項目 b1、b2、b3 はできるだけ偏りを作らずに修得することが望まれます。

b3. 自然科学に関する一般的知識およびそれをもとに思考する力を身につけている。

「自然科学」に関する一般的知識には、自然科学概論、生物学、地球科学、認知科学などが含まれます。人間科学科目群Bグループにおいては、自然科学に関する一般的知識およびそれをもとに思考する力を学びます。また、各学科・専攻により独自に開講している科目もあります。なお、社会人としての「豊かな教養」を身につけるために、項目 b1、b2、b3 はできるだけ偏りを作らずに修得することが望まれます。

c1. 建築学の基礎として数学、自然科学を理解し活用することができる。

建築学のさまざまな分野で自然科学の知識が用いられます。特に、力と運動の関係や熱や電気の性質を理解するために物理学、材料の特性や自然環境を理解するために化学が必要となります。また、専門分野で用いられる数式を理解し応用するためには数学の知識が必要となります。専門基礎科目群では、専門分野の基礎とな

る数学や自然科学を学びます。それぞれの専門科目の知識を習得するためのみならず、専門分野において創造的な仕事や研究をする上でも、これらの基礎知識をしっかりと身につけておくことが重要です。

c2 嗅覚の特性に関する専門知識があり、におい・かおりを測定・評価する基本的な力を身につけている。

嗅覚の重要性は認識されており、最新情報を基に、嗅覚機構を生理学的、解剖学的に学ぶとともに嗅覚の特性についても学びます。また、においの発生から嗅覚で検知されてにおいが顕在化するまでの過程、においの表現方法についても学びます。人間の嗅覚を用いて臭気を数値化する嗅覚測定法について、その方法から用途、留意点、嗅覚測定を行う際の注意点、においを評価するパネルの選定方法を学び、臭気濃度を求める方法である三点比較式臭袋法を実施できる力を身に付けます。臭気強度、快・不快度、容認性、においの質の評価方法と解析方法、機器により臭気を数値化する方法について各用途と留意点を学びます。においの機器測定については、長所と短所を学び、においの測定において適切な機器の選定ができる力を身に付け、特に、においセンサー、におい識別装置、検知管を用いた臭気物質濃度の測定、ガスクロマトグラフ、ガスクロマトグラフ質量分析計、液体クロマトグラフなどを用いた分析方法を学び、臭気の成分の定性、定量技術を修得します。

c3 におい物質、香料、人の心と身体に関する専門知識があり、におい対策手法とかおり活用能力を身につけている。

人間の五感（嗅覚、味覚、視覚、聴覚、触覚）についての基礎を学び、特に嗅覚の重要性を理解します。嗅覚は味覚と同様に化学物質を感知する感覚器官（センサー）であることを理解し、におい物質がいかなる化学的特性（主に分子構造に着目）及び物理的特性を持ち合わせているのかを学びます。また、日常生活及び自然界（主に動植物）中でのにおい物質の発生には、微生物の作用を含め、様々な条件が関与している事を学びます。また、におい・かおりはフレグランスおよびフレーバーのみならず、広く香り周辺のビジネスや研究の基礎となることを知り、かおりの特性や香料化学を学びます。代表的な香料に関してその特性を学ぶとともに、スニффイング法を用いて、香気を記憶する訓練を行います。さらに、調合上必要となる香料素材の物性や調合香料付加価値をつける香料の機能性、および冷感剤などに代表される調合香料の改質材、調合香料の基本的構成や使用助剤、調合香料の用途、香料の生産における品質管理問題、香料の安全性や登録問題を学びます。調香技術として、基本的なかおりアコードの取り方と調香の基本的な考え方について学び、実際に調香を行い、調香技術を身に付けます。におい対策については、生活環境の中で発生するにおい物質は、どのような場所でのようにして発生してくるのかを理解します。また、産業分野から一般消費者までのにおい対策法の基礎を幅広く学び、さらに最新の研究、技術の進歩について学ぶ。実験室レベルでの簡易な消臭脱臭法を経験し、どのような原理でにおい物質が空間から低減、除去されるのかを理解し、様々な消臭脱臭製品の性能を評価する方法を学び、演習を通して、その除去率の算出方法を修得します。空気清浄機の脱臭性能、芳香剤の効果、消臭剤の効果などの評価方法を学び、様々な消臭脱臭製品に対して脱臭性能の評価方法を選択する力と評価技術を身に付けます。

c4 におい・かおり空間をデザインするために必要な空間を構成する要素と環境要素に関する専門知識を身につけている。

におい・かおり空間をデザインするためには、空間を構成する環境要素に関する知識と評価方法の知識が必要です。空間デザインを行う上で必要な環境要素である空気は、におい・かおりとは特に密接に関係することから、重点的に学びます。空気環境の基礎を学び、化学物質等による室内空気汚染が問題になっていることからその問題に正しく対処するための知識を身に付け、対策の一つである換気のメカニズムを学ぶ。生活環境には、空気のほかに、光、音、熱などの他の要素もあり、それら全てが同時に感じられています。におい・かおり空間の環境の良し悪しには、におい・かおりと空気のみならず、様々な環境要素をどう捉えるかを知ることが、環境改善・質的向上を考える場合で重要であり、におい・かおりと他の環境要素とを組み合わせた快適なにおい・かおり空間デザイン創造のためにも必要不可欠です。環境の物理的な測定手法や人の感覚を用いた測定・評価方法を中心に学び、空気、光、音、熱などの環境と人との関係への理解を深め、環境要素の測定・評価に関する知識と技術を身に付けます。

d1 獲得した知識・技能・態度を総合的に活用し、自由な発想の下、独自に工夫・応用し、新たな知見を創造する力を身

につけている。

大学の授業ではさまざまな知識・技能・態度を獲得します。これらを総合的に活用し、さらに自由な発想の下で独自に工夫・応用して新たな知見を創造することにより、仕事や研究の現場で自ら課題を設定し、その課題解決に向けて深く探求することができます。人間科学科目群では、さまざまな知識や技能を修得する中で、それらを総合的に活用し新たな知見を創造する力を学びます。特に人間科学科目群Bグループでは、 세미나形式での演習系科目も設けており、人文科学・社会科学・自然科学の各分野において課題を設定し探求する方法を修得する中で、これらの力を学びます。また、各学科・専攻により独自に科目を開講しており、これらの力を学びます。

かおりデザインの6分野とキャリア構築系、プレゼンテーション技術系、建築士関連で学ぶ内容を基に、より良いかおりデザインの創造ができる力を 세미나形式の演習系科目で磨いていきます。

d2 調査・実験データから客観的・論理的ににおい・かおり環境を考察し、より良いにおい・かおり環境の実現に必要な事項を整理し、改善点を提案する力を身につけている。

におい・かおり空間をデザインするには、空間の臭気を制御し、様々なかおりの特性を活かし、その空間の用途から、不快臭を対策し、空間に相応しいかおりを活用することで、快適なにおい・かおり環境を実現することができます。より良いにおい・かおり環境を実現するための課題の抽出ができ、それらの課題を把握する手法、調査、データ整理、分析に関する知識を学び、その状況に相応しいにおい・かおり空間デザインの提案ができる力を身につけます。また、より良いにおい・かおり環境を実現するためには、研究の成果や産業界で展開されているにおい・かおりの内容を把握しておく必要があります。におい・かおりに関する研究、産業界の動向などを学び、自らも研究や産業界の動向などを調査できる力を身に付けるために、調査手法、解析手法を身に付けます。さらに、調査結果を分かりやすく伝えられるようにプレゼンテーション能力を磨きます。

d3 人とおいの関係を考慮し、におい・かおりの視点を取り入れたその時々で相応しい生活環境を創造する力を身につけている。

におい・かおりをはじめとした人を取り巻く環境要素は、常に何らかの形で人に刺激を与えています。このため、人に刺激を与えて反応や評価を把握する手法は、人と環境の関係を把握するための有効な手法です。におい刺激を念頭に置いて、心理評価手法および生理反応測定手法に関する知識を身に付けます。また、その時々で相応しい生活環境を創造するためには、環境の基準値を把握しておく必要があり、においに関する容認性と許容レベルに関する知識を身に付けます。さらに、人を取り巻く環境要素は、それぞれの環境要素が同時に人に刺激を与えていることから、人と環境の関係を総合的に把握できる手法を身に付けます。各手法の長所・短所、解析法、注意点などに関して学び、目的に応じた適切な手法が活用できる力を身に付け、総合的に安全で快適な環境を創造できる力を身に付けます。

6. 教育課程

第5章で説明した学位授与の方針は、4年間で身につけることが必要な知識や能力を示したものです。これを獲得するための学修の達成に必要な授業科目が記されたものが教育課程です。

本学の教育課程は、授業科目を順次的・体系的に配置したうえで、①授業科目の順次性・体系性と学位授与の方針との関係性を説明するためのカリキュラム・フローチャートとカリキュラムマップが準備され、②授業科目ごとに学修到達目標を定め、さらに、③皆さんが進みたい進路の参考とするため、履修モデルも準備されています。

図-1は、教育課程の概念図をまとめたものです。教育課程は、人間科学科目群、専門基礎科目群、および専門科目群の3つの群に分類されています。それぞれの授業科目の教育内容については6.1～6.3で説明します。6.4では卒業後の進路等に対応させて、教育課程の授業科目をどのように学修していくかという履修モデルが例示します。各授業科目で何を学んで、どんな知識を修得するかは、6.5で紹介するカリキュラムマップにおける学修到達目標に具体的にまとめています。

なお、教育課程を構成しているそれぞれの授業科目の具体的な開講期と単位数などを示したものは、別に示す「開講科目一覧」に表しています。

学年	1年次	2年次	3年次	4年次
科目群の位置づけ	人間科学科目群			
	社会・自然・人間と科学技術を調和させるための幅広い知識を習得し、必要な教養を身につけます。			
	専門基礎科目群			
	今まで学習してきた内容を大学での専門教育につなげるための基礎的素養を身につけます。			
	専門科目群			
	基幹科目			
	専門知識を習得するときの土台となる科目です。			
	展開科目			
				卒業研究
				総合 세미나 1, 2, 卒業研究が該当し、総合 세미나は、卒業研究の土台となります。

図－１ 建築学科かおりデザイン専攻の教育課程の構成概念図

6. 1 人間科学科目群

a 人間科学科目群 Aグループ

①ファースト・イヤー・セミナ

ファースト・イヤー・セミナ（First Year Seminar、略して FYS、初年次セミナ）とは、新入生である皆さん全員に、今後 4 年間の大学教育に不可欠な「学習技法（スタディ・スキルズ）」を習得してもらう科目です。いわば「大学での学び方」を学ぶ授業科目です。

実は、皆さんが高校まで普通だと思ってきた勉強の仕方と、大学での学びの方法はずいぶん違うところがあるのです。この方法の違いを理解した上で、「大学での学び方」に早く習熟し、積極的に大学の授業に参加してほしいのです。この点はとても大切です。大学での授業に戸惑ったり、どうにも積極的に参加できなかったり、せっかく勉学に打ち込んでもそれが空回りに終わって、4 年たっても実を結ばない、こうしたことの原因の一半には、大学での学び方（つまり知的レベルをステップアップする方法）のベースができていないことが大きく関わっていることが分かっています。

この授業は次のように 5 つのパートでできています。

- I 大学で学ぶとはどういうことか
- II 効果的な授業の聴き方、効率的なノートのとり方、テキストの的確な読み方
- III 知的収蔵庫である大学図書館の利用法
- IV 文章の書き方の基本、レポート作成のルール、およびその実践
- V 効果的なプレゼンテーションのさまざまな方法とその実践

この授業の第一のねらいは、「大学での学び方」を習得してもらうことで、皆さんが本学の教育にスムーズに
適応できること、言いかえると皆さんが手応えをもって大学生活を送ることができるよう手助けをするところ
にあります。しかしそれだけではありません。皆さんが社会に出、職業人として、あるいは市民として、豊か
に生きていこうとすると、自己表現スキルや、他者とのコミュニケーション・スキルの必要性をきつと感じ
ることでしょう。それらを可能にするのも、この授業が基盤となります。そうした最低限の知的技法もここ
には盛り込まれています。

こうした事項について、少人数クラスで初歩からみっちりと学んでもらいます。皆さんはこの授業において、
何より自分の知的ステップアップを信じて、全力でこれに応えねばなりません。

② 外国語科目

＜英語スキル1・2、資格英語、実践英語、英語ライティング、英語プレゼンテーション、中国語入門1・2＞

外国語を学習することには2つの重要な事項があります。第1はコミュニケーションの手段としての言語能
力の習得です。グローバル化の著しい今日においては外国語、特に英語によるコミュニケーション能力は21世
紀を生きる上で不可欠となります。第2はその言語の背景にある文化や思考を学ぶことです。言語の背景にあ
る文化やものの考え方を理解することなく言語を学ぶだけでは思わぬ誤解やトラブルに巻き込まれること
にもなりかねません。技術者にとっても外国語の能力の習得はますます重要になってきています。

そのような外国語の学習には基礎的な事項の反復学習が大切になります。大変に思うかもしれませんが、外
国語学習というのは努力をすればするほど成果も見込めるのです。本学では、1年次に「英語スキル1・2」、2
年次前期に「資格英語」を必修科目として開講しています。また、2年次後期に「実践英語」を選択科目として
開講しています。さらに、3年次でも外国語科目を学びたい人のために「英語ライティング」、「英語プレゼ
ンテーション」という選択科目を開講しています。英語以外の外国語として、中国語の基礎を学びたい学生は、
1年次に「中国語入門1・2」を選択科目として開講しています。

③ 健康科学科目＜スポーツ実技A・B、スポーツと健康の科学A・B＞

大学におけるスポーツ実技A・Bは、1年次にA、Bを配当しています。週1回の実技を通してスポーツの
技術およびその楽しさを学ぶことで、学生諸君が将来（生涯スポーツとして）も運動を継続して行えるよう
な素地を身につけ、スポーツを通じて集団を意識し、社会に対する適応力を向上させることを目的としています。

スポーツと健康の科学A・Bは3年次に配当しており、スポーツ科学および健康の維持増進に関する講義を行
います。スポーツや身体の仕組みについて学び、各個人がより健康に生活できるような知識と態度を身につけ
る事を目的としています。

④ 基礎英語 세미나

基礎英語セミナーでは、基本的な英単語を習得することと、習得した英単語を文脈のなかで正しく理解するこ
とを目標にします。一目ですぐに認識できる語彙を多量に獲得することは、英語を読んだり、書いたりするう
えで大きな力となるだけでなく、英語を聞いたり、話したりするうえで不可欠な力となってきます。英語によ
る学術的探求とコミュニケーションの礎になる力が、十分な練習を通して養成されることとなります。なお、
3年次修了までにこの科目を修得できなかった場合には、4年間で卒業することができなくなります。

⑤ DX(デジタルトランスフォーメーション)科目＜情報リテラシー概論・データサイエンス概論＞

現在、日本政府は、未来社会の姿として掲げている「Society 5.0」と呼ばれる社会構想を推進することで「超
スマート社会」を実現することを目指しています。

超スマート社会で活躍するであろう皆さんにとっては、大学で学修する分野によらず、データサイエンスや
人工知能(AI)を理解して、適切に活用する力をつけることが重要です。

データサイエンスやAIは今後のデジタル時代のよみ・かき・そろばんと言われており、すべての社会人が正
しい使い方を身につける必要があります。

本学では、この内容を修得するため、1年生前期に「情報リテラシー概論」が、また1年生後期に「データサイエンス概論」が、すべての学科・専攻において必修科目として設置されています。

どちらの科目ともオンデマンド形式の遠隔授業として開講されます。

各自のノート PC 等を利用して都合のよい時間に学修し、設定された課題を指定された期日までに提出してください。

なお、この二科目は文部科学省により実施されている「データサイエンス教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」に準拠した学修内容になっています。

・情報リテラシー概論

超スマート社会で活躍するためには、PC・スマートフォンなどの情報機器や、それらで得られる情報を適切に効率よく利用できるようになることが重要です。

本講義では、様々な情報サービスを適切に効率よく利用するための方法について説明します。

特に、本学で利用できる各種サービスについて説明します。

今後の活動で必要となるグループでの情報共有やコミュニケーション、情報の共有方法など、情報通信技術の基礎的な使用方法を確立してください。

・データサイエンス概論

卒業後に自分が活躍したい業界・業種に関わらず、今後の社会ではデータサイエンスやAIを理解することは重要です。

本講義では、数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な能力を身につけることを目的としています。データやAIが社会にどう関わっているかを理解して、それらを活用するための方法について学修します。

b. 人間科学科目群 Bグループ

大同大学の教育課程（カリキュラム）は、三つの科目群に支えられています。一つは各学科・専攻でおもに学ぶ専門科目群、他の二つは専門基礎科目群とここで説明する人間科学科目群です。人間科学科目群はファースト・イヤー・ 세미나と語学、体育の実技を含むAグループと、講義科目であるBグループから成り立っています。

人間科学科目群Bグループは、「人間・歴史文化・こころの理解」（人文科学分野、10科目）、「国際情勢と社会のしくみ」（社会科学分野、12科目）、「科学的なものの見方」（自然科学分野、12科目）、「学問への複眼的アプローチ」（学際的分野および演習、5科目）の4つのカテゴリーから構成されており、現代のリベラルアーツ教育において求められる多様かつ幅広い分野の科目を提供しています。これらに加え、より深く学びたいとの高い意欲をもつ学生に向けて、ゼミナール（小集団演習）形式の「課題探究 세미나A」、「課題探究 세미나B」を開講しています。

これらの講義系と演習系の科目はすべて、皆さんに多様な知的刺激を与えることができるように工夫されたものばかりです。そのねらいは、トータルな人間教育にほかなりません。言いかえると、皆さんが今をタフに生き、将来を担う一市民としての教養を身につけ、それに磨きをかけること、これが本科目群の目指すところです。

大学での専門教育はもちろん重要です。しかしそれを世の中に役立てながらも、一人ひとりが社会の中で豊かな人生を創出していくためには「教養」が欠かせません。本学では「教養」として、とくに「コミュニケーション力」、「自ら考える力」とそれと「協働力」に重点を置いています。こうした点で皆さんが自分らしさを発揮できるよう、Bグループにはさまざまな授業を取りそろえています。できるだけ偏りを作らず履修し、修得することが望まれます。

現在、私たちは歴史的転換期に身を置いています。日本でも世界でも、世の中は目まぐるしく変化し続けています。良いことも好ましくないことも瞬時に地球規模で拡散し、われわれはグローバル社会の一員であることを余儀なくされています。とくに日本は超高齢化社会に突入し、不透明で不確実な時代に入りつつあります。それでも世界は飽くなくマネーフローと途轍もないテクノロジーの進化を介して緊密に結びつくと同時に、ア

メリカ南北大陸圏、アジア圏、欧州、東欧およびロシア圏、アフリカ中東圏などで生じるローカルな歪みが、即座に世界各国に対し甚大な政治的・経済的影響をもたらします。さらに今後は AI（人工知能）や IoT（モノのインターネット）に代表される技術革新によって人間の働き方が様変わりするばかりか、われわれの想像力をはるかに超える近未来社会が待ち受けています。世界がより便利に、より快適な生活を享受できるようになることは好ましいですが、日本の社会を見ても逆に格差社会などが一部現実のものとなりつつあるのは見逃せません。

そこで皆さんに具体的に求められるのは、こうした時代を生き抜いていくための知恵や活力を自ら引き出し伸ばしていくことです。そのためには今を知り、そこから課題を見つけ出し、いろいろな角度から考え、そして解決策を自分であるいは仲間と協働しながら探り当てていく知とパワーが不可欠です。そして何よりも一人ひとりが自分の人生を存分に味わい、楽しめる力を発揮することが求められます。

大学では、人間と社会をよく知るためにも、人文・社会科学の学問分野の知見や見識が大切な役割を果たします。人文科学分野では、文学、哲学、歴史学、人類学、心理学が人間の営みや心の働きを扱い、社会科学分野では法学、経済学、政治学、社会学、社会調査法、現代社会論、課題探究集中講座が社会の仕組みから国際情勢の展望にまで皆さんを誘います。

また自然科学のアプローチから宇宙、地球、生命、身体そのものを知ることに加えて、われわれの生活環境や健康を見直す諸科目も開講されています。自然科学概論、環境と防災、地球科学、認知科学、生物学、健康科学の諸科目が、有益性と危険性をあわせ持つ科学技術、人間が生きる舞台としての地球環境、またヒトとしての人間、人間の心身・健康に焦点を当てています。

2年次、3年次には、「課題探究 세미나」として、アクティブ・ラーニングや PBL（問題・課題解決型授業）を意識した少人数科目を開設しています。

大学での勉学は、確かに与えられたものを繰り返し習い覚える地道な作業と同時に、何が問題でその解決のためにはどう向き合えばよいのかについて自分自身で考え、仲間と語り合い、行動をおこすところに醍醐味があります。

皆さんにとって、人間科学科目群 B グループがその糸口となることを願っています。

6. 2 専門基礎科目群(カリキュラムフローチャート)

専門基礎科目群において学習する教育内容および学修到達目標について説明します。図-2 のカリキュラム・フローチャートには、専門基礎科目群の授業科目のつながりとそれらの履修年度と学習順序が示してあります。

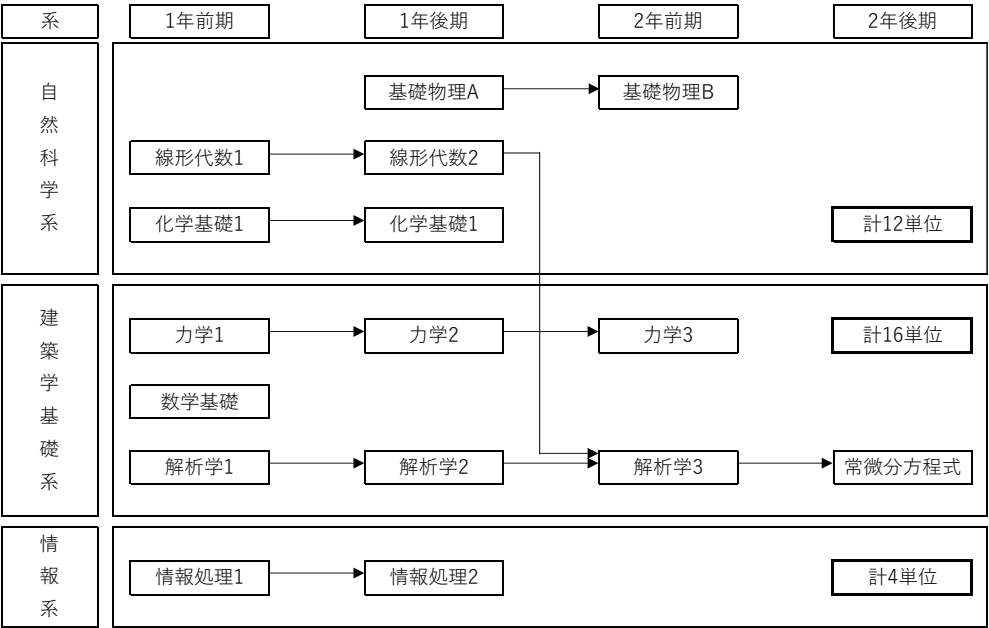


図-2 専門基礎科目群のカリキュラム・フローチャート

(1) 自然科学系

a. 教育内容

本学の学位授与の方針にあるように、豊かな教養を身につけ、豊かな創造力を身につけるためには、それぞれの専門分野にとらわれずに幅広い自然科学的なものの見方、考え方を修得することが大切です。そのために自然科学系の科目として、数学関係2科目、物理関係2科目、化学関係2科目が編成されています。それぞれの教育内容は、次のとおりです。

①[数学関係科目] (線形代数1, 線形代数2)

線形代数1と線形代数2では、2つのものの間に成り立つ関係のうち、もっともシンプルで多くのことの基礎となる「比例する」という関係を多くのものの間の関係に拡張した線形性と呼ばれる考え方について学びます。これを学ぶことにより、理工系のみならず経済学、社会学等の社会科学においても重要な、2つ以上のものの間に成り立つ関係をつかむ目が養われます。また線形性は平面や空間の幾何とも関係し、特に空間図形を把握する練習としても、線形代数の授業を活用してもらいたいと思います。

②[物理関係科目] (基礎物理A, 基礎物理B)

ここでは、高校の物理の復習から始めて、ベクトルと微分積分を使った大学の物理へ進みます。基礎物理Aでは、電磁気学の基礎事項を学びます。電荷を担う基礎的なものは電子などの粒子であること、電子の流れが電流であることなど、基本的な自然界の姿を学びます。さらに、電場（電界）や磁場（磁界）といった『場』という概念を学びます。基礎物理Bでは、熱力学の基礎を学びます。熱の微視的な理解、つまり物質の構成要素（原子や分子など）の熱振動のエネルギーとして熱が理解できることを学びます。さらに、熱や仕事などエネルギーの巨視的な理解、特に熱力学第一法則などを学びます。なお、電磁気学（基礎物理A）も熱力学（基礎物理B）も、力学の考え方を応用する場面が随所に出てきます。電磁気学や熱力学を学ぶ前に、力学を学んでおくことが必要です。

③[化学関係科目] (化学基礎1, 化学基礎2)

地球環境や物づくりを理解するには、物質についての基礎知識が必要です。化学基礎1では物質の構成要素である原子、分子そのものやそれらが集団になったときに現れる基本的な性質と挙動について学びます。化学基礎2では、より具体的な化学物質の特徴や化学反応について学びます。

(2) 建築学基礎系

a. 教育内容

建築学は応用科学であり、基礎科学である自然科学とは異なる学問分野ですが、建築学の色々な部分においては、自然科学の基本原則がいたるところで使われています。したがって、本学の学位授与方針にあるように確かな専門性を身につけるために、皆さんは建築学を学修する上で必要となる自然科学(特に、数学・物理・化学)の基礎学力を高めなければなりません。建築学基礎系の科目は、これに応えることを目的として設けられています。建築学基礎系の科目は、数学関係5科目、物理関係3科目、物理・化学関係1科目で編成されています。それぞれの教育内容は、次の通りです。

①[数学関係科目] (数学基礎, 解析学1, 解析学2, 解析学3, 常微分方程式)

建築学基礎系の数学では特に、近代科学技術文明の基礎とも言えるニュートン、ライプニッツに始まる微分積分学を、段階を追って学修していきます。変化の割合を表す微分法と、面積や体積を求める積分法とがどこでつながるのか。無限とか極限とかいう言葉がよく出てくるが、どういう意味なのか。こういったことをしっかり考えて学修することにより、微分積分学の基本的な考え方が身につき、数式とその表すものとの関係がわかるようになります。さらに常微分方程式を学ぶと、変化の割合がみたす式より将来を予測することが出来るようになり、自然の中に存在する因果関係（何が原因で何が結果か）にも目が向かうようになるでしょう。

また高等学校までの数学教育の多様化に対応し、他の数学系科目および自然科学、工学系専門科目への準備となる科目として、数学基礎を開講しています。この科目の受講対象者は入学時に実施する学力試験の結果に基づいて決定され、受講対象者には1年前期に解析学1に先んじて、特に大学での専門教育に直結する基礎的な数学を精選して教授します。

②【物理関係科目】（力学1，力学2，力学3）

力学とは物体の運動を知ることが目的とする理論であり、その理論体系には自然科学と自然科学を応用する工学・情報学の考え方の基礎が集約されています。物体の代表例は工業材料（歯車やクランクなどの機械部品、あるいは車や人工衛星、建築物などの製品）です。工業材料の静止状態を扱う科目の基礎事項も、そして工業材料が動く状態を扱う科目の基礎事項も、力学1、2、3という科目で扱います。力学1、2、3を通して、ベクトルと微分積分を使って力の合成・分解、運動方程式を解いて物体の運動を決定する手順、エネルギー保存則など力学の重要事項を学びます。特に大切なのは、『運動方程式は微分方程式であり、それを満たす解（関数）が運動を表す』という点です。その具体例として、放物運動、円運動、バネの力による単振動、摩擦がある場合の減衰振動、周期的な外力が働く場合の強制振動など、工業材料の動きを理解する上で重要な運動を扱います。さらに、振動の応用として理解できる波動の基礎事項も力学3で学びます。

（3）情報系（情報処理1，情報処理2）

高度情報通信社会ということばやインターネットに代表されるように、近年の情報化の進展は著しく、一人ひとりが情報の発信・収集・活用・伝達を効率よく実践できる情報活用能力を身につけることが必要です。情報活用能力の育成を目的として、専門基礎科目群の中で情報科目を設けています。

1年次に、電子メールやインターネット、基本ソフトウェアの操作といった基本的な情報の活用方法を体験し、情報処理の原理や仕組みを理解できるようになっています。また、プレゼンテーションの技法や様々な調査分析などに活用できる統計処理の手法について学びます。

（4）基礎数学セミナー・基礎理科セミナー

ア 【数学関係科目】（基礎数学セミナー）

基礎数学セミナーでは、数式を一目で把握し、スムーズに計算できることを目標にします。「何とかできる」ではなく「一目でスムーズにできる」ことが自然科学・工学の素養として大切で、そのためには十分な量の練習が必要です。

なお、3年次修了までにこの科目を習得できなかった場合には、4年間で卒業することができなくなります。

イ 【物理・化学関係科目】（基礎理科セミナー）

大学で学ぶ科目の中に、理科の基礎知識を必要とするものが、物理・化学だけではなく、専門科目にも多くあります。基礎理科セミナーでは、大学で学ぶ上で最低限必要となる基礎的な数値計算や単位の取り扱い、および自然科学的な基礎知識を身につけることを目標とします。「何とかできる」ではなく「スムーズにできる」ことが自然科学・工学の素養として大切で、そのためには十分な量の練習が必要です。

なお、3年次修了までにこの科目を習得できなかった場合には、4年間で卒業することができなくなります。

6.3 専門科目群(カリキュラムフローチャート)

専門科目群の授業科目は、かおりデザインの6分野、キャリア構築系、プレゼンテーション技術系に関する基幹科目とそれらの知識を発展させる展開科目、卒業研究からなります。また、建築士受験資格を得ることができる建築士関連科目も設置されています。

図-1 にあげた専門基礎科目群および専門科目群のカリキュラム・フローチャートを図-3 に示します。

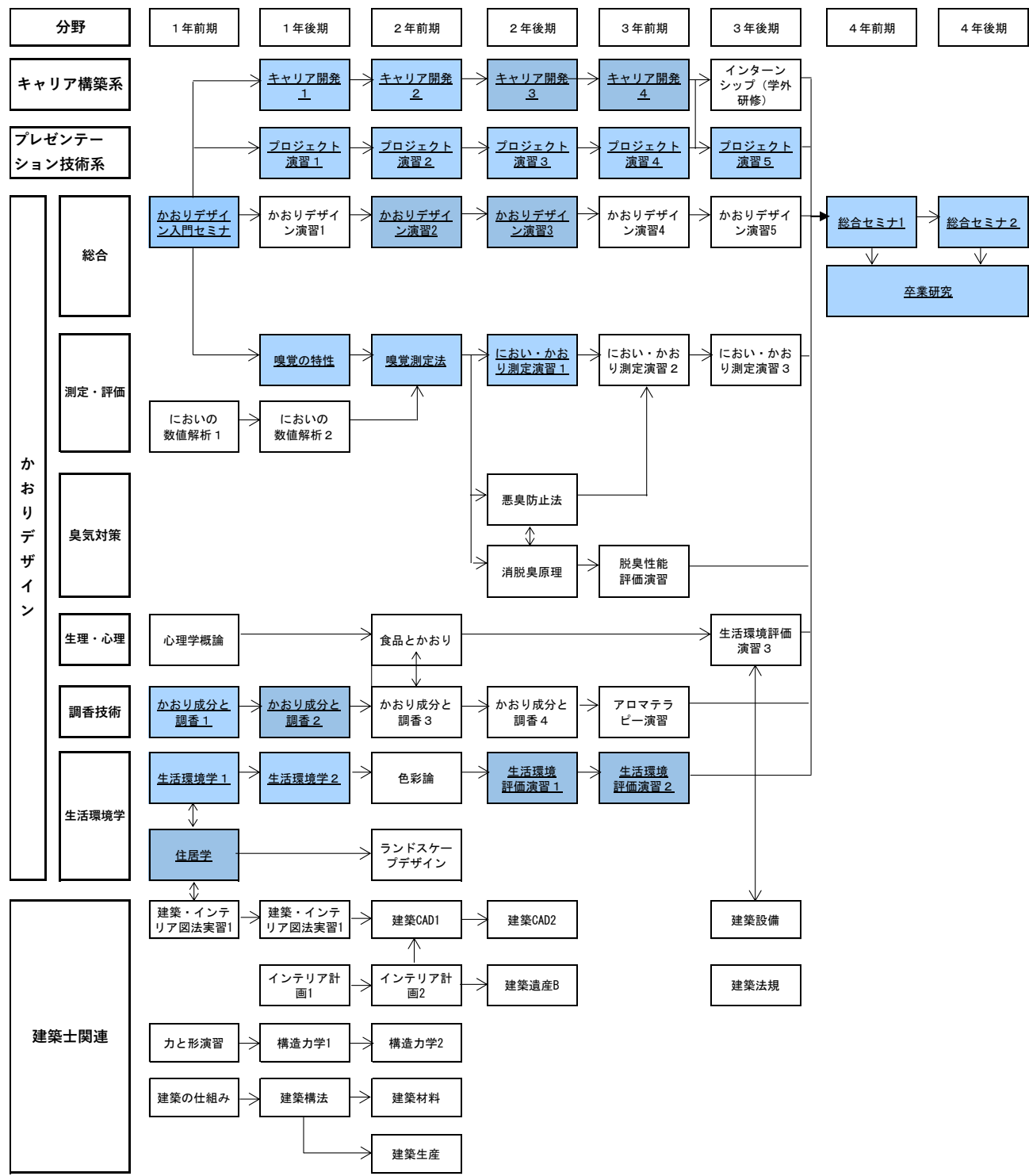


図-3 専門科目群のカリキュラム・フローチャート

(1) 基幹科目 (16科目)

基幹科目は、入門的・基礎的な専門知識を学ぶ必須科目と選択科目からなります。

必須科目は、かおりデザインを学ぶための動機づけ科目である「かおりデザイン入門セミナー」、社会人基礎力も養う「キャリア開発1・2」、かおりデザインにかかる課題について自らが主体的に調査、研究し、成果を発表する「プロジェクト演習1・2」、かおりデザインの入門的科目である「住居学」「生活環境学1・2」、「かおり成分と調香1・2」、「嗅覚の特性」、「嗅覚測定法」からなります。

選択科目は、におい・かおり測定・評価に関わる統計処理を学ぶ「においの数値解析1・2」、生理・心理に関わる「心理学概論」、臭気対策の基礎的科目である「消脱臭原理」からなります。

(2) 展開科目 (25科目)

基幹科目で学習した内容を基に、発展的な内容を修得するのが展開科目です。「キャリア開発3・4」「プロジェクト演習3・4・5」、「生活環境評価演習1・2」「におい・かおり測定演習1」「かおりデザイン演習2・3」以外はすべて選択科目です。3年次の後期(6期)の「インターシップ(学外研修)」では、におい・かおりを専門とする企業などで実務実習を行います。

(3) 関連科目 (16科目)

建築士の受験資格関連の科目は、かおりデザイン分野にもありますが、その他にも建築士受験資格取得に関係する科目が16科目設置されています。

(4) 卒業研究 (3科目)

総合セミナー1、総合セミナー2、そして卒業研究では、各自が課題を決め、その課題に関して研究を行います。卒業研究は4年間の集大成であり、これまで学んできた知識を応用し、研究を行います。研究に対する取り組み方を学び、最後に研究成果の発表を行います。

(5) 横断的な科目の履修

建築学科かおりデザイン専攻では、同一学科内の他の専攻が開講する授業科目を選択科目として履修し、6単位を上限として、「卒業に必要な単位数」に算入することができます。科目の詳細等については、別途ガイダンス等で案内します。

6.4 履修モデル

基幹科目で重要なことは、かおりデザインを学ぶときに不可欠な基本知識を修得することです。また、展開科目や卒業研究では、卒業後の進路も見据えて、専門科目の中でどの分野に主眼をおいて学習するかを自分自身で考えることが大切です。図-4と図-5の履修モデルは、卒業後の進路に対応させて、教育課程の授業科目(専門基礎科目群と専門科目群)をどのように学習していくかというモデルを例示したものです。

図-4の履修モデルAは、特に香料やかおりに関する知識と調香技術を修得し、生活環境の様々な環境要素とかおりの関係を考慮して快適な生活環境の創造ができる力が身に付けられるモデルです。この履修モデルの場合には、アロマ検定などにおい・かおり分野の資格取得を取得し、卒業後の進路として、主にかおりの創造と活用の分野での活躍を目指す場合を想定しています。図-5の履修モデルBは、特に臭気測定・評価、対策に関する知識と技術を修得し、環境測定、においの測定・成分分析が行える力を身に付けることができるモデルです。この履修モデルの場合には、国家資格である臭気判定士をはじめとするにおい・かおり分野の資格取得を取得し、屋内外のにおい・かおり測定、分析、臭気対策の分野での活躍を目指す場合を想定しています。

人間科学科目群	人間科学科目群 27単位
---------	--------------

専門基礎科目群	1			
	基礎数学 세미나			
	1			
	基礎理科 세미나			
	2	2		
	線形代数 1	線形代数 2		
		2	2	
		基礎物理A	基礎物理B	
			2	2
			現代物理学 1	現代物理学 2
	2			
	数学基礎			
	2	2	2	2
	解析学 1	解析学 2	解析学 3	微分方程式
	2	2	2	
	力学 1	力学 2	力学 3	
	2	2		
化学基礎 1	化学基礎 2			
2	2			
情報処理 1	情報処理 2			

専 門 科 目 群		1	1	1	1	2
		キャリア開発 1	キャリア開発 2	キャリア開発 3	キャリア開発 4	インターンシップ (学外研修)
	1	2	2	2	2	2
	かおりデザイン入門セミナー	プロジェクト演習 1	プロジェクト演習 2	プロジェクト演習 3	プロジェクト演習 4	プロジェクト演習 5
	2	2	2	2	2	2
	住居学	かおりデザイン演習 1	かおりデザイン演習 2	かおりデザイン演習 3	かおりデザイン演習 4	かおりデザイン演習 3
		2	4	4	4	4
		嗅覚の特性	嗅覚測定法	におい・かおり測定演習 1	におい・かおり測定演習 2	におい・かおり測定演習 3
	2	2	2	2	2	
	かおり成分と調香 1	かおり成分と調香 2	かおり成分と調香 3	かおり成分と調香 4	アロマテラピー演習	
	2	2	2	2		
	においの数値解析 1	においの数値解析 2	食品とかおり	消脱臭原理	脱臭性能評価演習	
	2	2	2	2	4	
	生活環境学 1	生活環境学 2	色彩論	生活環境評価演習 1	生活環境評価演習 2	生活環境評価演習 3
	2		2	2		
心理学概論		ランドスケープデザイン	悪臭防止法			

2	2
総合セミナー1	総合セミナー2
6	
卒業研究	

	2	2	
	インテリア計画 1	インテリア計画 2	
2	2	2	
建築の仕組み	建築構法	建築材料	
2	2	2	2
建築インテリア図 法実習 1	建築インテリア図 法実習 2	建築CAD 1	建築CAD2
2	2	2	
力と形演習	構造力学 1	構造力学 2	
		2	2
		建築生産 1	建築遺産B

2
建築設備
2
建築法規

*下線は必須科目
*斜体は建築士受験資格関係科目

図一4 履修モデル A(かおり創造・活用)

人間科学
学科目
群

人間科学科目群 27単位

專門基礎科目群

1			
基礎数学セミナー			
1			
基礎理科セミナー			
2	2		
線形代数 1	線形代数 2		
	2	2	
	基礎物理A	基礎物理B	
		2	2
		現代物理学 1	現代物理学 2
2			
数学基礎			
2	2	2	2
解析学 1	解析学 2	解析学 3	微分方程式
2	2	2	
力学 1	力学 2	力学 3	
2	2		
化学基礎 1	化学基礎 2		
2	2		
情報処理 1	情報処理 2		

專門科目群

	1	1	1	1	2
	キャリア開発 1	キャリア開発 2	キャリア開発 3	キャリア開発 4	インターンシップ (学外研修)
1	2	2	2	2	2
かおりデザイン入門セミナー	プロジェクト演習 1	プロジェクト演習 2	プロジェクト演習 3	プロジェクト演習 4	プロジェクト演習 5
2	2	2	2	2	2
住居学	かおりデザイン演習 1	かおりデザイン演習 2	かおりデザイン演習 3	かおりデザイン演習 4	かおりデザイン演習 5
	2	4	4	4	4
	嗅覚の特性	嗅覚測定法	におい・かおり測定演習 1	におい・かおり測定演習 2	におい・かおり測定演習 3
2	2	2	2	2	
かおり成分と調査 1	かおり成分と調査 2	かおり成分と調査 3	かおり成分と調査 4	アロマテラピー演習	
2	2	2	2	2	
においの数値解析 1	においの数値解析 2	食品とかおり	消脱臭原理	脱臭性能評価演習	
2	2	2	2	2	
生活環境学 1	生活環境学 2	色彩論	生活環境評価演習 1	生活環境評価演習 2	生活環境評価演習 3
2		2	2		
心理学概論		ランドスケープデザイン	悪臭防止法		

2	2	2	2
建築インテリア図法実習 1	建築インテリア図法実習 2	建築CAD 1	建築CAD 2
	2	2	
	インテリア計画 1	インテリア計画 2	
2	2	2	
建築の仕組み	建築構法	建築材料	
2	2	2	
力と形演習	構造力学 1	構造力学 2	
		2	
		建築生産 1	建築遺産 B

2
建築設備
2
建築法規

2	2
総合セミナ1	総合セミナ2
6	
卒業研究	

2
建築設備
2
建築法規

*下線は必須科目
*斜体は建築士受験資格関係科目

図一5 履修モデル B(臭気測定・対策)

建築学部 建築学科 かおりデザイン専攻 カリキュラムマップ

カリキュラムマップとは、各科目を履修することにより、学生が何をできるようになるかという学修到達目標をあげ、それがどの学位授与の方針の達成につながるのかを示したものです。その見方を以下に説明します。

カリキュラム・マップでは、各授業科目の学修到達目標と学位授与の方針の関係の強さが数値的に示されています。ある学修到達目標を身につけることが、各学科専攻の定める全 12 項目の学位授与の方針のどの項目にどの程度関係するのかの強さを示す数値を貢献度といいます。一つの授業科目の全貢献度 100 をまず各学修到達目標に配分（縦方向）し、それぞれが関係する学位授与の方針に配分（横方向）しています。ひとつの学修到達目標が関係する学位授与の方針は複数になることもあります。

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針													
			必修	選択	自由				a		b			c				d			合計	
									学科(専攻)の学位授与の方針													
									a 1	a 2	b 1	b 2	b 3	c 1	c 2	c 3	c 4	d 1	d 2	d 3		
人間科学科目群	Aグループ	ファースト・イヤー・セミナー	1		1 [2]	高校と大学の学びの違いが理解できる。	5	5										10				
						ノートの取り方が効果的にできる。	5	5											10			
						文章を読んで、概要・要点をまとめることができる。	5	5											10			
						図書館の利用法がわかる。	5	5											10			
						レポートの作成の必要手順が分かる。	5	5											10			
						基本的なレポートの作成ができる。	8	7							5				20			
						プレゼンテーションの基本スキルが理解できる。	5	5											10			
						プレゼンテーションの初歩的な実践ができる。	7	8							5				20			
						授業科目の貢献度	45	45	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	100			
						英語スキル1	2		1 [2]	題材を読み取り、基礎的な読解方略を身に着け、内容を的確に理解することができる。	6	6								1		
	題材に関する大まかな内容を聞き取ることができる。	8	8												2			18				
	題材に関して、シャドーイング等の練習により英語を正しく発音をすることができる。	8	8												2			18				
	題材に関して、自分の意見や考えを簡単な英語で簡潔に記述することができる。	8	8												2			18				
	題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語である程度伝達することができる。	8	8												2			18				
	基礎的な英語の語彙の意味を習得し、正確に発音をすることができる。	7	7												1			15				
	授業科目の貢献度	45	45	0	0					0	0	0	0	0	10	0	0	100				
	英語スキル2	2		2 [3]	題材を読み取り、基礎的な読解方略を身に着け、内容をよりの確に理解することができる。	6	6								1			13				
					題材に関する内容を聞き取ることができる。	8	8								2			18				
					題材に関して、シャドーイング等の練習により英語を正しく、流暢に発音をすることができる。	8	8								2			18				
					題材に関して、自分の意見や考えを英語で簡潔に記述することができる。	8	8								2			18				
					題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語で伝達することができる。	8	8								2			18				
					英語の語彙の意味を習得し、より正確に発音をすることができる。	7	7								1			15				
					授業科目の貢献度	45	45	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	100				
	資格英語	2		3 [4]	「資格英語」では、1年次における「英語スキル1」および「英語スキル2」による発信型の英語スキルを高める指導を踏まえ、2年次の前期においては、英語の資格試験TOEICにおける得点の向上をはかることを目的とする。TOEICにおける得点の向上をはかるために、リスニングおよびリーディングに関する学習方略を習得させることに重点を置くことにより、英文の基礎的な読解力および聴解力の向上をはかる。また、「英語スキル1」および「英語スキル2」における語彙指導を継続し、その語彙の意味がわかる受容語彙に留まらず、発信力を伴った英語の語彙の習得をはかることにも努める。	TOEICで出題される基礎的な語彙の意味を理解できる。	9	9							2			20				
					TOEICの英文のリスニング練習を通じて、英文を聞き取る方法を身に着けることができる。	9	9									2			20			
					TOEICの英文のリーディング練習を通じて、英文を読み取る方法を身に着けることができる。	9	9									2			20			
					TOEICの英文のリスニングおよびリーディングの基礎となる英文法を理解できる。	9	9									2			20			
					TOEICの英文のリスニングおよびリーディングの土台となる基礎語彙が習得できる。	9	9									2			20			
					授業科目の貢献度	45	45	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	100				
	実践英語	1		4	「実践英語」では、1年次の「英語スキル1」と「英語スキル2」、2年次の前期の「資格英語」の指導を踏まえ、英語の資格試験TOEICにおいて、さらなる高得点をとらせることを目的とする。TOEICで課される英文を読み進める学習方略および英語の聴き取りに関する学習方略を習得させることに重点を置き、英文の読解力および聴解力の一層の向上をはかる。1年次より継続した語彙指導に関しては、基礎的な語彙習得の確認をはかるとともに、より難易度の高い語彙については、その意味がわかる受容語彙の拡大をはかる指導を行う。	TOEICで出題される語彙の意味を理解できる。	9	9							2			20				
					TOEICの英文のリスニング練習を通じて、英文をより正確に聞き取る方法を身に着けることができる。	9	9									2			20			
					TOEICの英文のリーディング練習を通じて、英文をより正確に読み取る方法を身に着けることができる。	9	9									2			20			
					TOEICの英文のリスニングおよびリーディングの基礎となる英文法の知識を活用することができる。	9	9									2			20			
					TOEICの英文のリスニングおよびリーディングの土台となる語彙が習得できる。	9	9									2			20			
					授業科目の貢献度	45	45	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	100				

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針													
			必修	選択	自由				a		b			c				d				
									学科(専攻)の学位授与の方針													
									a 1	a 2	b 1	b 2	b 3	c 1	c 2	c 3	c 4	d 1	d 2	d 3	合 計	
人間科学科目群	Aグループ	英語ライティング	1	5	「英語ライティング」では、1年次の「英語スキル1」および「英語スキル2」による英語の4技能の基礎力、2年次に学んだ「資格英語」における読解力および聴解力の向上を踏まえて、発信型の英語指導の一環として基礎的な英文の書き方の基礎を学ばせるとともに、与えられたテーマに関して、30分で100語程度の英文エッセイを記述できる英語のライティング力の養成をはかることを目的とする。また、作成した英文を他者に口頭で伝達する練習を行い、スピーキング力の向上をはかるとともに、英語のプレゼンテーションが実践できる基礎力も養う。	与えられたテーマに対して、深く考察し自分の意見を構築することができる。	9	9								2			20			
						パラグラフレベルのテキスト構成を組み立て方を理解することができる。	9	9								2			20			
						自身の意見をパラグラフレベルのテキスト構成に沿って英文を記述することができる。	9	9								2			20			
						自身の意見をパラグラフレベルのテキスト構成に沿って作成した英文を口頭で他者に伝達できる。	9	9								2			20			
						英語で初歩的で簡易なプレゼンテーションができる。	9	9								2			20			
						授業科目の貢献度	45	45	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	100			
		英語プレゼンテーション	1	6	「英語プレゼンテーション」では、3年次前期の「英語ライティング」を踏まえて、英語のライティングスキルの向上をはかりながら、英語によるプレゼンテーションを行う基礎的な技能を習得させることを目的とする。英語によるアカデミックプレゼンテーションの構成方法やそこで使用される英語表現を学ばせ、英語のプレゼンテーションを行う原稿作成を行い、構成方法や英語表現を実際に使えるように指導する。こうした作成した原稿を他者に伝達する練習を行い、最終的には、英語によるプレゼンテーションを実施してもらい、英語によるプレゼンテーション能力の養成をはかる。	プレゼンテーションでの与えられたテーマに対して、自身の意見を構築することができる。	9	9								2			20			
						英語でプレゼンテーションの簡易な原稿を記述することができる。	9	9								2			20			
						英語によるアカデミックプレゼンテーションの構成方法が理解できる。	9	9								2			20			
						英語によるアカデミックプレゼンテーションで使われるや英語表現を身に着けることができる。	9	9								2			20			
						英語で簡易なアカデミックプレゼンテーションができる。	9	9								2			20			
						授業科目の貢献度	45	45	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	100			
	中国語入門1	1	1	「中国語入門1」では、はじめて外国語としての中国語を学ぶ学生を対象として、基礎的な中国語の理解をはかることを目的とする。この授業では、中国語の基礎となる発音を身に着けるせることに重点を置き、その後、基礎的な文法を学ばせ、簡易な会話練習を行ったり、読解力の養成につとめる。このような学びを通じて、中国語学習の入門から初期段階に至るまでに中国語の全体像を学習者が把握できるように指導する。また、中国の文化に触れる機会を授業内にもうけ、国際的な視野を養成することも目指す。	中国語の初歩的な発音を身に着けることができる。	9	9								2			20				
					中国語の初歩的な文法を理解できる。	9	9								2			20				
					中国語できわめて初歩的な会話ができる。	9	9								2			20				
					中国語の初歩的な読解力を身に着けることができる。	9	9								2			20				
					中国の文化への関心を高め、国際的な視野の基礎を身に着けることができる。	9	9								2			20				
					授業科目の貢献度	45	45	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	100				
	中国語入門2	1	2	「中国語入門2」では、「中国語入門1」を踏まえて、中国語への理解がより一層深まることを目的とする。この授業では、中国語の発音を身に着けるせることに重点を置き、さらに、語彙力を高める指導を行う。その後、基礎的な文法を学ばせ、会話練習を行ったり、読解力の養成につとめる。このような学びを通じて、中国語学習の入門から初期段階に至るまでに中国語の全体像を学習者が把握できるように指導する。また、中国の文化に触れる機会を授業内にもうけ、国際的な視野を養成することも目指す。	中国語の基礎的な発音を身に着けることができる。	9	9								2			20				
					中国語の基礎的な文法を理解できる。	9	9								2			20				
					中国語で基礎的な会話ができる。	9	9								2			20				
					中国語の基礎的な読解力を身に着けることができる。	9	9								2			20				
					中国の文化への関心を高め、国際的な視野を身に着けることができる。	9	9								2			20				
					授業科目の貢献度	45	45	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	100				
	スポーツ実技A(卓球)	1	1	レクリエーションスポーツとして卓球の楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることができる。	6	6												12			
					対人ラリーが20球続けられる。	7	7								2			16				
					フォアハンドロングによるラリーができる。	7	7								2			16				
					バックハンドによるショートのつなぎができる。	7	7								2			16				
					相手からのボールに対してコースを決めて返球できる。	6	6								2			14				
					目的の位置にサービスを打つことができる。	6	6								2			14				
					得点の数え方および審判ができる。	6	6											12				
					授業科目の貢献度	45	45	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	100				
					スポーツ実技A(バドミントン)	1	1	レクリエーションスポーツとしてバドミントンの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることが出来る。	6	6											12
									オーバーヘッドストロークによるラリーが出来る。	7	7								2			16
	アンダーハンドストロークが出来る。	7	7												2			16				
	ネットプレーによるつなぎが出来る。	7	7												2			16				
	スマッシュを打つ事が出来る。	6	6												2			14				
	目的の位置にサーブを打つ事が出来る。	6	6												2			14				
	得点の数え方および審判が出来る。	6	6															12				
	授業科目の貢献度	45	45	0					0	0	0	0	0	0	10	0	0	100				

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針													
			必修	選択	自由				a		b			c				d			合 計	
									学科 (専攻) の学位授与の方針													
									a 1	a 2	b 1	b 2	b 3	c 1	c 2	c 3	c 4	d 1	d 2	d 3		
人間科学科目群	Aグループ	スポーツ実技 A 《硬式テニス》	1	1	正確なグリップでラケットを握ることができる。	6	6											12				
					フォアハンドストロークによるラリーができる。	7	7							2			16					
					フォアハンドストロークを打つことができる。	7	7							2			16					
					フォアハンドボレーのつなぎ合いができる。	7	7							2			16					
					バックハンドボレーを打つことができる。	6	6							2			14					
					アンダーサーブを目的の位置に打つことができる。	6	6							2			14					
					得点の数え方および審判ができる。	6	6										12					
					授業科目の貢献度	45	45	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	100				
					《サッカー・フットサル》	1	1	正確な部位でボールを蹴ることができる。	6	6												12
		インサイドキックでパスをすることができる。	7	7											2			16				
		インステップキックでパスをすることができる。	7	7											2			16				
		アウトサイドキックでパスをすることができる。	7	7											2			16				
		パスされたボールを止めることができる。	6	6											2			14				
		スローインをする事ができる。	6	6											2			14				
		得点の数え方および審判ができる。	6	6													12					
		授業科目の貢献度	45	45				0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	100				
		スポーツ実技 B 《卓球》	1	2				正確なグリップでラケットを握ることができる。	6	6												12
					対人ラリーが 20 球続けられる。	7	7								2			16				
					フォアハンドロングによるラリーができる。	7	7								2			16				
					バックハンドによるショートのつなぎができる。	7	7								2			16				
					相手からのボールに対してコースを決めて返球できる。	6	6								2			14				
					目的の位置にサービスを打つことができる。	6	6								2			14				
					得点の数え方および審判ができる。	6	6										12					
					授業科目の貢献度	45	45	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	100				
					スポーツ実技 B 《バドミントン》	1	2	正確なグリップでラケットを握ることが出来る。	6	6												12
		オーバーヘッドストロークによるラリーが出来る。	7	7											2			16				
		アンダーハンドストロークが出来る。	7	7											2			16				
		ネットプレーによるつなぎが出来る。	7	7											2			16				
		スマッシュを打つ事が出来る。	6	6											2			14				
		目的の位置にサーブを打つ事が出来る。	6	6											2			14				
		得点の数え方および審判が出来る。	6	6													12					
		授業科目の貢献度	45	45				0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	100				
		スポーツ実技 B 《硬式テニス》	1	2				正確なグリップでラケットを握ることができる。	6	6												12
					フォアハンドストロークによるラリーができる。	7	7								2			16				
					フォアハンドストロークを打つことができる。	7	7								2			16				
					フォアハンドボレーのつなぎ合いができる。	7	7								2			16				
					バックハンドボレーを打つことができる。	6	6								2			14				
					アンダーサーブを目的の位置に打つことができる。	6	6								2			14				
					得点の数え方および審判ができる。	6	6										12					
					授業科目の貢献度	45	45	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	100				
					《サッカー・フットサル》	1	2	正確な部位でボールを蹴ることができる。	6	6												12
		インサイドキックでパスをすることができる。	7	7											2			16				
		インステップキックでパスをすることができる。	7	7											2			16				
		アウトサイドキックでパスをすることができる。	7	7											2			16				
		パスされたボールを止めることができる。	6	6											2			14				
		スローインをする事ができる。	6	6											2			14				
		得点の数え方および審判ができる。	6	6													12					
		授業科目の貢献度	45	45				0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	100				

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針													
			必修	選択	自由				a		b			c				d				
									a 1	a 2	b 1	b 2	b 3	c 1	c 2	c 3	c 4	d 1	d 2	d 3	合 計	
																						学科 (専攻) の学位授与の方針
人間科学科目群	Aグループ	スポーツと健康の科学 A	1		5	身体の仕組みについて理解できる。	5	5										10				
						運動による身体的反応について理解できる。	10	10										20				
						スポーツ等の身体活動が身体に与える影響と健康を維持増進させる仕組みについて学ぶ。身体を動かすことによる効果を知識として身につけ、日常生活に活用することを期待する。各個人がより健康な生活を継続できるよう、知識と態度を養うことを目的とする。	10	10										20				
						運動が健康に与える影響について理解できる。	10	10										20				
						運動を日常生活に取り入れる意義を説明できる。	10	10										20				
						運動を日常生活に取り入れる工夫ができる。	10	10							10			30				
						授業科目の貢献度	45	45	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	100			
		スポーツと健康の科学 B	1		6	身体の仕組みについて理解できる。	5	5											10			
						運動による身体的反応について理解できる。	10	10										20				
						スポーツ科学および健康の維持増進に関する講義を行う。スポーツを題材に身体の仕組みや日常生活で取り入れやすい運動方法を学び、より活動的かつ健康的な生活を送る基盤の形成を目的とする。	10	10										20				
						運動が健康に与える影響について理解できる。	10	10										20				
						運動を日常生活に取り入れる意義を説明できる。	10	10										20				
						運動を日常生活に取り入れる工夫ができる。	10	10							10			30				
						授業科目の貢献度	45	45	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	100			
		情報リテラシー概論	1		1	コミュニケーション・ツールを適切に使い分けができる。	5	5											10			
						文書作成ソフトを使用して、適切な構造の文書を作成することができる。	10	10									5		25			
						表計算ソフトを使用して、データを集計・加工・分析・可視化することができる。	10	10											20			
						プレゼンテーション・ソフトを使用して、統一的なプレゼンテーション資料を作成することができる。	10	10									5		25			
						クラウド・ストレージを適切に使用することができる。	5	5											10			
						インターネット等で得られるデータの著作権等に基づき適切に使用することができる。	5	5											10			
						授業科目の貢献度	45	45	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	100			
		データサイエンス概論	1		2	「第4次産業革命」や「Society 5.0」という言葉に代表されるような超スマート社会で活躍するであろう皆さんにとって、分野によらずデータサイエンス・AIを理解し活用する力をつけることが重要です。本講義は、数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な能力を身につけることを目的としています。データやAIが社会にどう関わっているかを理解し、データを理解し活用するための方法について学修します。	10	10										20				
						データ・AIを利活用するための技術について説明することができる。	10	10											20			
						データ・AIの利活用に必要な数学や統計の基礎を理解している。	10	10											20			
数学や統計の知識を活用してデータを理解し説明することができる。	15					15									10		40					
授業科目の貢献度	45					45	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	100					
Bグループ	文学 A	2	1・3・5	活字や映像を通して文学作品の内容を理解することができる。				30										30				
				文学作品を生み出した作家について、理解を深めることができる。				30									30					
				文学作品が書かれた文化的な背景について、理解を深めることができる。				30									30					
				自分の考え方との共通点や相違点を意識しながら文学作品を読解できる。										10			10					
				授業科目の貢献度	0	0	90	0	0	0	0	0	0	10	0	0	100					
				文学 B	2	2・4・6	活字や映像を通して文学作品のテーマを理解することができる。				30									30		
							文学作品を生み出した作家の思想や伝記について、理解を深めることができる。				30								30			
	文学作品が書かれた文化的な背景について、現代の文化との共通点や相違点を理解することができる。							30								30						
	文学作品の読解を通して自分の考え方を客観的に見直すことができる。													10		10						
	授業科目の貢献度	0	0				90	0	0	0	0	0	0	10	0	0	100					
	哲学 A	2	1・3・5	プラトン哲学におけるイデア論、デカルト哲学におけるコギトの意義について説明できる。				30									30					
				西洋哲学史の概論を通じて、その世界観に触れるとともに、自分を知る。				30								30						
				西欧近代の日本における受容の特質について説明できる。				30								30						
				哲学の学習を通じて、知的リフレッシュメントを味わうことができる。										10		10						
				授業科目の貢献度	0	0	90	0	0	0	0	0	0	10	0	0	100					
	哲学 B	2	2・4・6	哲学の学問的意義を理解し、さまざまな日常的テーマについて哲学的考察を示すことができる。				30									30					
				「人間力」を測るものさしを複数もつことができる。				30								30						
				倫理思想の大まかな流れについて理解することができる。				30								30						
				自分の人生について、哲学的な指針を持つことができる。										10		10						
				授業科目の貢献度	0	0	90	0	0	0	0	0	0	10	0	0	100					

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針													
			必修	選択	自由				a		b			c				d				
									a 1	a 2	b 1	b 2	b 3	c 1	c 2	c 3	c 4	d 1	d 2	d 3	合 計	
																						学科(専攻)の学位授与の方針
人間科学科目群	Bグループ	人類学A	2		3・5	さまざまな文化へのアプローチを学ぶとともに、現代社会の課題について考察する。	形のないものの価値について説明することができる。			30										30		
							様々な文化を比較しつつ説明することができる。			30										30		
							習慣の意味を説明する事ができる。			30										30		
							現代における人間像について様々な角度から考え、論じる事ができる。										10			10		
							授業科目の貢献度	0	0	90	0	0	0	0	0	0	10	0	0	100		
		人類学B	2		4・6	文化事象を歴史的に捉え、変化するものと変化しないものを区別する。	アイデンティティとは何かについて説明する事ができる。			30										30		
							文化についての様々な考え方を説明する事ができる。			30										30		
							通過儀礼の意味を説明する事ができる。			30										30		
							「変わっていくもの」と「変わらないもの」の意味を考え、論じる事が出来る。										10			10		
							授業科目の貢献度	0	0	90	0	0	0	0	0	0	10	0	0	100		
		歴史学A	2		1・3・5	歴史学の学習を通じて、現代に生きるわれわれが学ぶべき教訓を読み取る。	歴史学の魅力と学問分野としての特徴および思考方法を理解する。			30										30		
							授業で扱う対象(国、地域、人物)および歴史的事例についての基本的理解を得る。			30										30		
							現代の同時代的テーマについて、歴史的視点から考察することができる。			30										30		
							過去の事例から教訓をみつけ、これを現代社会においてどのように活かせるかを考える。										10			10		
							授業科目の貢献度	0	0	90	0	0	0	0	0	0	10	0	0	100		
		歴史学B	2		2・4・6	歴史学の学習を通じて、現代に生きるわれわれがもつ「常識」を相対化し、現代社会に関わるテーマを問い直す。	歴史学の魅力と学問分野としての特徴および思考方法を理解する。			30										30		
							授業で扱う対象(国、地域、人物)および歴史的事例についての基本的理解を得る。			30										30		
							現代的課題(政治・経済・文化その他)について、歴史学の視点から考察することができる。			30										30		
							過去の事例から教訓をみつけ、これを現代社会においてどのように活かせるかを考える。										10			10		
							授業科目の貢献度	0	0	90	0	0	0	0	0	0	10	0	0	100		
		心理学A	2		1・3・5	人間の心の働きと変化の様相を多角的に捉え、あらためて自分を知る。	感覚と知覚、感情、学習といった心理学の基本的なテーマについて、理解することができる。			30										30		
							発達という概念および発達過程について、理解することができる。			30										30		
							パーソナリティという概念について、理解することができる。			30										30		
							心理学の知識をもとに、自分自身や身近な出来事について、理解することができる。										10			10		
							授業科目の貢献度	0	0	90	0	0	0	0	0	0	10	0	0	100		
		心理学B	2		2・4・6	他者(たち)との関わり、社会での位置どりの観点から人間の行動・態度を捉えなおし、あらためて自分のあり方を考える。	自己に関する諸概念や社会的認知の特徴と機能について、理解することができる。			30										30		
							対人魅力や対人関係、対人コミュニケーションの特徴と機能について、理解することができる。			30										30		
							集団のもつ特徴や機能、および集団内での人間の行動について、理解することができる。			30										30		
心理学の知識をもとに、自分自身や身近な出来事について、理解することができる。															10			10				
授業科目の貢献度	0						0	90	0	0	0	0	0	0	10	0	0	100				
教育原理	2		1	西洋における教育思想や近代公教育制度の成立とわが国への導入過程を理解し、教育理念の多様性と今日的な教育問題について歴史的背景・社会的状況と関連づけながら考える。	教育の目的について考え、多様な教育の理念が思索・蓄積されてきたことを理解することができる。			30										30				
					近代公教育制度の成立について、歴史的背景を踏まえて理解することができる。			30										30				
					教育を成り立たせる要素についてそれぞれを関連づけながら理解することができる。			30										30				
					近年の教育課題や教育改革の動向を教育の歴史や社会的状況と関連づけながら理解することができる。										10			10				
					授業科目の貢献度	0	0	90	0	0	0	0	0	0	10	0	0	100				

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針													
			必修	選択	自由				a		b			c				d				
									a 1	a 2	b 1	b 2	b 3	c 1	c 2	c 3	c 4	d 1	d 2	d 3	合 計	
																						学科 (専攻) の学位授与の方針
人間科学科目群	Bグループ	教育心理学	2	3	「教育」という営みをとおしてみえてくる人間の変化、他者・世界との関わりのあり様を捉えると同時に、それらから「教育」のあり方を考える。	「発達」とはどのようなことを理解し、各発達過程における特徴を把握することができる。			15										15			
						「青年期」の特徴を理解し、この時期特有の問題について心理学的な観点から考察することができる。			15											15		
						学習の基礎となる条件づけ、記憶の役割などを踏まえながら、基礎的な学習理論を理解することができる。			15											15		
						学習へのやる気を高めるために、動機づけ、学習意欲、無気力のメカニズムを理解することができる。			15											15		
						学校における現代的課題として、いじめ、不登校、発達障害などを取り上げて関連知識を身に付けるとともに、アプローチの仕方について考察することができる。			15											15		
						教育評価について、基本的な考え方と方法、評価資料収集の技法を理解することができる。			15											15		
						教師と生徒の望ましい人間関係を理解したうえで、教師の指導行動のあり方について考察することができる。									10					10		
						授業科目の貢献度	0	0	90	0	0	0	0	0	0	10	0	0		100		
		政治学A	2	1 3 5	政治学の基礎的な概念と理論を学ぶことを通じて、政治現象を的確に理解する力を身につけ、市民として現実政治とどのように関わっていくのかを考える。	政治学の基礎概念（政治、権力、国家など）を理解する。				30									30			
						自由民主主義の理論と政治制度について理解する。				30									30			
						政治制度の基本的枠組み（国会、内閣、選挙、政党、利益集団、地方自治など）を理解する。				30									30			
						自分と政治との関わりについて考えることができる。									10				10			
						授業科目の貢献度	0	0	0	90	0	0	0	0	0	10	0	0		100		
		政治学B	2	2 4 6	現代日本を含む世界の民主主義・非民主主義諸国の政治的動向について、政治学理論および制度と動態の視点から考察し、理解を深める。	政治制度の基本的枠組みと特質について理解する。				30									30			
						現代民主主義の理論的特徴について理解する。				30									30			
						現代民主主義の制度的特徴について理解する。				30									30			
						授業で扱った政治争点について理解し、多面的に考えることができる。									10				10			
						授業科目の貢献度	0	0	0	90	0	0	0	0	0	10	0	0		100		
		経済学A	2	1 3 5	経済学の基礎的な理論を学びつつ、現代社会における様々な現象とその背後にある経済のメカニズムを把握する。以上を通して、社会科学的な思考法を身に着ける。	経済学における基本的な用語や理論について説明することができる。				30									30			
						資本主義の意味と影響について説明することができる。				30									30			
						経済活動の役割とその限界を認識し、適切に活用することができる。				30									30			
						経済的・社会的な事象ををデータに基づいて論じることができる。									10				10			
						授業科目の貢献度	0	0	0	90	0	0	0	0	0	10	0	0		100		
		経済学B	2	2 4 6	現代社会の経済事情を取り扱いつつ、その背後にある歴史的経緯や構造を理解する。また、以上の作業を通じて、経済分析に必要な基礎的なスキルを身に着ける。	企業の特性・構造について説明できる。				30									30			
						日本の経済構造について、国際的視野を交えつつ説明することができる。				30									30			
						歴史上に起こった出来事が経済をどのように変えたのかを説明することができる。				30									30			
						経済的・社会的な事象ををデータに基づいて論じることができる。									10				10			
						授業科目の貢献度	0	0	0	90	0	0	0	0	0	10	0	0		100		
		法学A	2	3 5	法の成り立ちと、現代社会の諸事件を取り上げながら法的知識の基礎を修得する。	授業で扱う学説や判例を正確に理解できる。				30									30			
						授業で扱う学説や判例の当否を論理的に説明できる。				30									30			
						授業で得た知見を利用して、現実の政治問題や社会問題を論評できる。				30									30			
						日常生活での法的知識の重要性を理解し、説明できる。									10				10			
						授業科目の貢献度	0	0	0	90	0	0	0	0	0	10	0	0		100		
		法学B	2	4 6	日本国憲法とその特質について、実例・判例を通じて考察する。	日本国憲法の制定経緯および基本原則が説明できる。				30									30			
						国民主権、基本的人権、表現の自由の内容と意味を理解し説明できる。				30									30			
						違憲立法審査権の具体的事件を説明できる。				30									30			
						日常生活での法的知識の重要性を理解し、説明できる。									10				10			
						授業科目の貢献度	0	0	0	90	0	0	0	0	0	10	0	0		100		
		社会学A	2	1 3 5	社会科学および社会学の方法を学び、身近な社会現象への関心を培う。また、学んだ理論を人間関係や組織の分析に生かすことを目指す。	近代を背景に成立した社会学の特徴について説明できる。				30									30			
						社会と個人の関係について説明できる。				30									30			
						社会における不平等のあり方を、階級・階層という概念と結びつけて説明できる。				30									30			
						社会学の概念を用いながら社会関係のメカニズムを論じる事ができる。									10				10			
						授業科目の貢献度	0	0	0	90	0	0	0	0	0	10	0	0		100		

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針													
			必修	選択	自由				a		b			c				d				
									a 1	a 2	b 1	b 2	b 3	c 1	c 2	c 3	c 4	d 1	d 2	d 3	合 計	
																						学科 (専攻) の学位授与の方針
人間科学科目群	Bグループ	社会学B	2	2・4・6	社会学が持つ分析手法（量的・質的）について、説明できる。				30									30				
					都市の特徴と都市社会学の歴史について説明できる。				30									30				
					社会学が持つ分析方法を学ぶ。また、異なった価値観・論理を持つ主体や社会の間に存在する関係性に着目し、理解することを目指す。				30									30				
					社会学の概念を用いながら社会変動のメカニズムを論じる事ができる。									10				10				
					授業科目の貢献度	0	0	0	90	0	0	0	0	0	10	0	0	100				
		社会調査法A	2	3・5	社会調査の目的とその種類（質的調査と量的調査）について理解する。				30									30				
					母集団及び標本抽出について理解する。				30									30				
					量的調査のための統計学の基本的知識（基礎統計量、クロス集計表、カイ二乗検定）について理解する。				30									30				
					先行研究を参考にしつつ、目的に応じた調査計画を構想することができる。									10				10				
					授業科目の貢献度	0	0	0	90	0	0	0	0	0	10	0	0	100				
		社会調査法B	2	4・6	社会調査の多様な方法とそれぞれの利点を理解する。				30									30				
					調査票作成の技法（ワーディングや尺度構成）を身につける。				30									30				
					社会調査の意義を理解するとともに、社会調査の実施（調査設計、データ収集、データ分析）に必要な知識を学ぶ。				30									30				
					授業で獲得した知識をもとに、社会調査の実施計画を立てることが出来る。									10				10				
					授業科目の貢献度	0	0	0	90	0	0	0	0	0	10	0	0	100				
		現代社会論A	2	3・5	授業で扱う国・地域・人物などについての基本的な情報を理解する。				30									30				
					担当者の専門分野からの学術的アプローチの面白さを理解する。				30									30				
					授業で学修した内容を踏まえ、その国・地域・人物に固有の特徴を文章で説明することができる。				30									30				
					授業で獲得した視野を通じ、これまでの自分が考えてきた常識を問い直すことができる。									10				10				
					授業科目の貢献度	0	0	0	90	0	0	0	0	0	10	0	0	100				
現代社会論B	2	4・6	授業で扱う国・地域・人物などのについての基本的な情報を理解する。				30									30						
			担当者の専門分野からの学術的アプローチの面白さを理解する。				30									30						
			授業で学修した内容を踏まえ、その国・地域・人物に固有の特徴を文章で説明することができる。				30									30						
			授業で獲得した視野を通じ、これまでの自分の認識を相対化し、新しい見方を獲得する。									10				10						
			授業科目の貢献度	0	0	0	90	0	0	0	0	0	10	0	0	100						
教育社会学	2	2	自己の教育経験・教育観を相対化し、種々の教育事象・教育問題を社会学的なものの見方によって考察することができる。				30									30						
			学校教育を支える法や制度について理解し、具体的な例をもとに説明することができる。				30									30						
			教育行政や学校経営の歴史およびその変容について理解し、説明することができる。				30									30						
			学校と保護者・地域との協働について具体的な事例をもとに説明することができる。									10				10						
			授業科目の貢献度	0	0	0	90	0	0	0	0	0	10	0	0	100						
健康科学A	2	1・3・5	疾病、外傷および外傷・傷害について理解できる。					30									30					
			ストレスおよびその対処法について理解できる。					30									30					
			身体の解剖学的構造、生理学的な仕組みを理解した上で、健康を維持・増進させる基礎的な知識を身につける。					30								30						
			健康とはなにかを理解し、その維持増進ために自発的に取り組むことができる。									10				10						
			授業科目の貢献度	0	0	0	0	90	0	0	0	0	10	0	0	100						
健康科学B	2	2・4・6	身体の動く仕組みと人体の構造について理解できる。					30									30					
			適切なトレーニング方法ついて理解することができる。					30									30					
			身体のケアについて理解することができる。					30									30					
			日常生活を通じて、身体についての理解と実践を結びつけて考えることができる。									10				10						
			授業科目の貢献度	0	0	0	0	90	0	0	0	0	10	0	0	100						

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針															
			必修	選択	自由				a		b			c				d						
									学科(専攻)の学位授与の方針															
									a 1	a 2	b 1	b 2	b 3	c 1	c 2	c 3	c 4	d 1	d 2	d 3	合 計			
人間科学科目群	Bグループ	認知科学 A	2	3・5	認知科学の基本、とくに知覚や記憶のメカニズムについて習得する。	情報処理アプローチに基づく認知科学の方法論を説明することができる。					30													30
						知覚、記憶といった認知機能の仕組みや、神経機構について説明することができる。					30										30			
						ヒューマンエラーの原因について説明することができる。					30											30		
						認知科学の知見をふまえ、様々なテーマについて学際的に考えることができる。												10				10		
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	90	0	0	0	0	10	0	0			100			
	認知科学 B	2	4・6	認知機能と人間の行動との関係について考察する。	認知科学という学問、および我々が行っている認知について、基本的かつ論理的な説明をすることができる。					30														30
					記憶のメカニズムや分類、自覚できない心の働きとその影響について、説明することができる。					30											30			
					ヒューマンエラーが生じる理由や予防法について、論じることができる。					30												30		
					認知科学の知見をふまえ、様々なテーマについて学際的に考えることができる。												10				10			
					授業科目の貢献度	0	0	0	0	90	0	0	0	0	10	0	0			100				
	環境と防災 A	2	3・5	自然環境・社会環境に関わる知識を学びつつ、災害が発生し、被害が拡大するメカニズムを考察する。	自然環境・社会環境と災害の関係について説明できる。					30														30
					災害と防災・減災の歴史について説明できる。					30														30
					環境変動と災害の関係について説明できる。					30														30
					学修内容を踏まえた上で、災害への備えとして自身が行うべきことをまとめる事ができる。												10					10		
					授業科目の貢献度	0	0	0	0	90	0	0	0	0	10	0	0			100				
	環境と防災 B	2	4・6	自然環境・社会環境に関わる知識を学びつつ、防災・減災の実践上持つておくべき基礎的な知識を修得する。	自然環境・社会環境と災害の関係について説明できる。					30														30
					防災・減災に関連する情報を取得・分析する事ができる。					30														30
					防災・減災について地域が直面する課題について説明できる。					30														30
					学修内容を踏まえた上で、災害への備えとして自身が行うべきことをまとめる事ができる。												10						10	
					授業科目の貢献度	0	0	0	0	90	0	0	0	0	10	0	0			100				
	自然科学概論 A	2	1・3・5	物理学はすべての自然科学の土台にあたる学問である。身近な電気や熱をはじめ、現代物理学の基本を学びながら、科学技術と生活・社会との関係についても考える。	科学で扱える問題と扱えない問題を区別できる。					30														30
					科学リテラシーの必要性を理解できる。					30														30
					近代科学の特徴を説明し、20世紀初頭における自然認識の大転換を理解することができる。					30														30
					科学・技術と社会との関係を主体的・批判的に考えることができる。												10						10	
					授業科目の貢献度	0	0	0	0	90	0	0	0	0	10	0	0			100				
	自然科学概論 B	2	2・4・6	化学は物質の本質、あり様、変化を探る学問である。原子、電子をパーツとする物質の基本と多様性の概要を学習しながら、現代社会での科学技術における化学と関連分野の意味と役割を学習する。	物質の成り立ちの基本を理解できる。					30														30
					物質科学の成立とその歴史の概要を説明できる。					30														30
					現代社会における物質科学の役割と限界を説明できる。					30														30
現代社会における物質科学とその応用としての技術の有用性と危険性を主体的・批判的に考え、人間社会との関わりの視点から将来を展望することができる。																10						10		
授業科目の貢献度					0	0	0	0	90	0	0	0	0	10	0	0			100					
生物学 A	2	3・5	生物学の基本を習得し、人間を生物として捉え、特別扱いしない視点を獲得する。	生物学の基礎概念と思考方法を理解することができる。					30														30	
				生物多様性や生物の進化のメカニズムについて説明することができる。					30														30	
				生物間のネットワークや環境の影響について説明することができる。					30														30	
				生物学の学習を通じて、自然と人間の関係性を考えることができる。												10						10		
				授業科目の貢献度	0	0	0	0	90	0	0	0	0	10	0	0			100					
生物学 B	2	4・6	生物学の基礎を習得し、生物の進化や環境との関係の視点から、自然と人間のかかわりを考える。	生物学の基礎概念と思考方法を理解することができる。					30														30	
				生物の進化史を大まかに説明することができる。					30														30	
				環境と生物の関係について説明することができる。					30														30	
				生物学の学習を通じて、自然と人間の関係性を考えることができる。												10						10		
				授業科目の貢献度	0	0	0	0	90	0	0	0	0	10	0	0			100					

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針													
			必修	選択	自由				a		b			c				d				
									a 1	a 2	b 1	b 2	b 3	c 1	c 2	c 3	c 4	d 1	d 2	d 3	合 計	
																						学科 (専攻) の学位授与の方針
人間科学科目群	Bグループ	地球科学 A	2		3・5	地球科学の魅力とその基礎概念や方法を理解する。					30								30			
						地震、プレート運動、構成物質などを理解する。					30								30			
						地球の成り立ちを学び、地球科学の基礎概念を理解する。	化石の観察から生物の進化の歴史を理解する。				30								30			
						授業で学んだ知識や概念を用いて、地球に関する基礎的考察ができる。									10				10			
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	90	0	0	0	0	10	0	0		100		
		地球科学 B	2		4・6	天体観測についてその歴史と方法を理解する。					30									30		
						津波のメカニズムを理解し、わが国の天気図を読み解き、自然災害について考察する。					30								30			
						地球の運動のデータを使い、暦の原理を理解する。					30								30			
						授業で学んだ知識や概念を用いて、地球の未来像を考察することができる。										10			10			
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	90	0	0	0	0	10	0	0		100		
		課題探究集中講座	2		集中講義9月	理工系・情報学系の学生が、人文科学・社会科学・自然科学等の教養を身につけることができる。											30			30		
						問題解決に向けた新たな提案や構想を持つことができる。											30			30		
						人間科学との関連で人生を如何に生きるべきかを考えることができる。											40			40		
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0		100		
		課題探究セミナーA	2		3・5	学修内容に関連して、自ら課題を発見し設定できる。												20			20	
						諸科学から一つのアプローチを選択し、課題に関する情報を収集整理できる。												20			20	
						少人数のセミナー形式での議論・実験・フィールドワーク等の体験を通して、自然科学・社会科学・人文科学分野における知識や技術の意義とその活用方法を学ぶ。												20			20	
						課題解決に向けての考察を論理的に進めることができる。												20			20	
						自らの課題に対して解決まで導くことができる。												20			20	
						コミュニケーションを通じて相手に自らの課題解決の営みを伝えることができる。												20			20	
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0		100		
		課題探究セミナーB	2		4・6	学修内容に関連して、自ら課題を発見し設定できる。												20			20	
						諸科学から一つのアプローチを選択し、課題に関する情報を収集整理できる。													20			20
						課題解決に向けての考察を論理的に進めることができる。													20			20
						自らの課題に対して解決まで導くことができる。													20			20
						コミュニケーションを通じて相手に自らの課題解決の営みを伝えることができる。													20			20
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0		100		
		教養総合講座A	2		3・5	現代の問題群を整理することができる。												25			25	
						ひとつの課題を複数の視点から観察し全体像をつかむことができる。													25			25
						課題に関わる人間の権利と義務をおさえることができる。													25			25
						これまでの問題解決アプローチをまとめることができる。													25			25
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0		100		
		教養総合講座B	2		4・6	現代の問題群を整理することができる。												25			25	
						ひとつの課題を複数の視点から観察し全体像をつかむことができる。													25			25
						課題に関わる人間の権利と義務をおさえることができる。													25			25
						問題解決に向けての新たな提案や構想をもつことができる。													25			25
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0		100		
		専門基礎科目群	建築学基礎系	線形代数1	2	1	ベクトルの内積の定義を説明でき、成分による内積の計算ができる。						20							20		
行列式の基本性質や余因子展開を使って行列式の計算ができる。											35							35				
行列の和・積等の計算ができる。											15							15				
逆行列を求めることができる。											15							15				
クラメルの公式を使って連立方程式の解を表すことができる。											15							15				
授業科目の貢献度	0						0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0		100		

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針													
			必修	選択	自由				a		b			c				d				
									a 1	a 2	b 1	b 2	b 3	c 1	c 2	c 3	c 4	d 1	d 2	d 3	合 計	
																						学科(専攻)の学位授与の方針
専門基礎科目群	自然科学系	線形代数2	2	2	ベクトルの外積について学び、内積および外積の図形への応用について学ぶ。また、複素平面の基本事項についても学ぶ。	空間における平面の方程式・直線の方程式を説明できる。						15							15			
						ベクトルの外積の定義を説明でき、成分による外積の計算ができる。						30								30		
						外積を使って、三角形の面積および四面体の体積を計算できる。						20								20		
						1次変換の性質を説明でき、空間の回転の回転軸を求めることができる。						15								15		
						複素数の極形式を使った計算ができる。						20								20		
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100		
		基礎物理A	2	2	この科目では、電気と磁気を統一的に理解する物理学の一分野である「電磁気学」の基礎を扱います。電磁気学は電流や電気回路などを理解する基礎理論であり、重要な科目です。この科目では、まず「電荷を担う基礎的なものは電子などの粒子であること」や「電流は電子の集団の運動であること」など基本的な自然界の姿を学びます。次に、これを踏まえて、電場（電界）や磁場（磁界）といった「場」という概念を学びます。なお、電磁気学の内容には力学の考え方を応用して理解するものが随所に出てきます。電磁気学を学ぶ前に力学を学んでおくことが必要です。	電気力と電場の関係を説明できる。						20						20				
						電位と静電エネルギーを説明できる。						20								20		
						ミクロな視点で電流を説明できる。						20								20		
						ローレンツ力と磁場（磁束密度）の関係を説明できる。						20								20		
						電流が作る磁場（磁束密度）を図を使って説明できる。						20								20		
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100		
	基礎物理B	2	3	基礎物理Bでは熱力学の基礎事項を学びます。この科目では、まず、熱の微視的な理解つまり「物質の構成要素（電子や分子など）の乱雑な運動のエネルギーとして熱が理解できること」を学びます。次に、これを踏まえて、熱や仕事などエネルギーの巨視的な理解、特に熱力学第一法則を学びます。熱力学は、専門科目においてエンジン燃料の燃焼効率、発電機や電池の発電効率などを考える際の基礎となる重要な科目です。なお、熱力学の内容には、力学の考え方を応用して理解するものが随所に出てきます。熱力学を学ぶ前に力学を学んでおくことが必要です。	熱力学第1法則を説明できる。						25						25					
					気体分子の熱運動で、内部エネルギー、熱、圧力、絶対温度などの物理量を説明できる。						25								25			
					熱と温度の違いを説明できる。						25								25			
					p - V グラフと仕事の関係を説明できる。						25								25			
					授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100			
					化学基礎1	2	1	物質の構成要素である原子、分子そのものやそれらが集団になったときに現れる基本的な性質と挙動について学ぶ。	物質の構成と結合を説明できる。						25							25
	原子・分子の集合体としての気体・液体・固体の状態を説明できる。										25								25			
	溶液の濃度と性質との関係を説明できる。										25								25			
	化学反応の仕組みと熱の関係について説明できる。										25								25			
	授業科目の貢献度	0	0	0					0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100			
	化学基礎2	2	2	具体的な化学物質の特徴や化学反応について学ぶ。					酸・塩基の中和反応の仕組みを説明できる。						25							25
					酸化還元反応を理解し、電池・電気分解の説明ができる。						25								25			
元素の分類と代表的な無機物質の性質を説明できる。										25								25				
代表的な有機化合物の性質を説明できる。										25								25				
授業科目の貢献度					0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100				
建築学基礎系					数学基礎	2	1 [2]	高等学校の数学から大学の数学への橋渡しとして、三角関数、指数関数、対数関数、集合と命題について学ぶ。	複素数の範囲で、2次方程式および高次方程式を解ける。						15							15
	分数式の四則計算と部分分数分解ができる。										15								15			
	弧度法による一般角の三角関数を説明でき、加法定理を用いた計算ができる。										30								30			
	指数法則および対数の性質を理解し、それを用いた計算ができる。										25								25			
	集合の共通部分と合併集合を理解し、公式を用いた要素の個数の計算ができる。										15								15			
	授業科目の貢献度	0	0	0					0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100			
	解析学1	2	1 [2]	1変数関数の微分積分の基礎理論と基礎的な計算法について学ぶ。多くの演習を通じて、微分積分の計算に慣れるようにする。	導関数の基本公式(定数倍・四則・合成関数)を説明できる。						15							15				
					べき関数、指数・対数関数、三角・逆三角関数の微分公式を説明でき、初等関数を微分できる。						35								35			
					不定積分の意味および基本関数の不定積分公式を説明できる。						10								10			
					置換積分法と部分積分法を理解し、それらを応用できる。						20								20			
					定積分と不定積分の関係を理解し、基本的な定積分の計算ができる。						20								20			
					授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100			
解析学2	2	2 [3]	1変数関数の微分積分の応用理論と発展的な計算法について学ぶ。多くの演習を通じて、微分積分の応用に慣れるようにする。	ライプニッツの公式を理解し、それを積の高階微分計算に応用できる。						10							10					
				ロピタルの定理およびテーラーの定理を理解し、それらを応用できる。						40								40				
				有理関数の不定積分を計算でき、無理関数等の積分に応用できる。						30								30				
				広義積分を説明でき、その計算ができる。						10								10				
				定積分の応用として、曲線の長さを計算できる。						10								10				
				授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100				

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針													
			必修	選択	自由				a		b			c				d				
									a 1	a 2	b 1	b 2	b 3	c 1	c 2	c 3	c 4	d 1	d 2	d 3	合 計	
																						学科 (専攻) の学位授与の方針
専門基礎科目群	建築学基礎系	解析学 3	2	3 [4]	解析学 1、2 を基にして、多変数関数 (主に 2 変数関数) の微分、積分法の基礎理論とその応用について学ぶ。	偏導関数の意味を理解し、初等関数の偏導関数を求めることができる。						15						15				
						2 変数関数についての合成関数の微分公式 (連鎖律) を理解し、それを応用できる。						15							15			
						2 変数関数の極値を調べることができる。						20								20		
						2 重積分の意味と基本性質を説明でき、反復積分公式を使って 2 重積分を計算できる。						35								35		
						変数変換公式を用いる 2 重積分の計算ができる。						15								15		
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100	
		常微分方程式	2	4 [5]	解析学 1、2 の基本事項を基にして、1 変数関数の微分方程式である常微分方程式の解法について学ぶ。	常微分方程式とその解の意味を説明できる。						10							10			
						基本的な微分方程式 (変数分離形、同次形、1 階線形、完全微分形) が解ける。						40								40		
						斉次線形微分方程式の解の性質を説明できる。						10								10		
						定数係数斉次線形微分方程式が解ける。						20								20		
						2 階非斉次線形微分方程式の特殊解の求めかたを理解し、それを応用できる。						20								20		
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100	
		力学 1	2	1 [2]	物理学の一分野である力学の主な目的は「物体の運動を知ること」だと言えます。 その理論体系には自然科学を応用する工学・情報学の考え方の基礎が集約されています。 この力学 1 という科目の大きな目標は、 (1) ベクトルに基づいて、力の合成・分解を正確に理解する (2) 微分積分に基づいて、運動方程式を解くことで物体の運動が決定できることを学ぶ の二つです。 この科目は、工学系の専門科目 (例えば工業力学や構造力学などの名称の科目) につながる重要な科目です。 なお、理系の大学生には「物事を理路整然と理解すること」が必要になりますが、その理路整然とした理解を実行する具体例としても、力学は好都合です。	力の合成・分解をベクトルを使って説明できる。						20						20				
						基本的な力 (重力、ばねの力、摩擦力) の法則を説明できる。						20								20		
						速度、加速度の定義を説明できる。						20								20		
						力学の 3 つの基本法則を説明できる。						20								20		
						放物運動の運動方程式を解き、その運動を説明できる。						20								20		
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100	
		力学 2	2	2	物理学の一分野である力学の主な目的は「物体の運動を知ること」だと言えます。 その理論体系には自然科学を応用する工学・情報学の考え方の基礎が集約されています。 この力学 2 という科目の大きな目標は、 (1) 仕事、運動エネルギー、位置エネルギー、力学的エネルギーを正しく理解する (2) 力学 1 よりも複雑な運動 (特に単振動) を、運動方程式を解いて理解する の二つです。 なお、理系の大学生には「物事を理路整然と理解すること」が必要になりますが、その理路整然とした理解を実行する具体例としても、力学は好都合です。	仕事の定義を説明できる。						20						20				
						力学的エネルギー保存則を説明できる。						20								20		
単振動の運動方程式を解き、その運動を説明できる。										20								20				
円運動と、慣性力としての遠心力を説明できる。										20								20				
力のモーメントの定義を説明できる。										20								20				
授業科目の貢献度	0					0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100			
力学 3	2	3	物理学の一分野である力学の主な目的は「物体の運動を知ること」だと言えます。 その理論体系には自然科学を応用する工学・情報学の考え方の基礎が集約されています。 この力学 3 という科目の大きな目標は、 (1) 力学 2 よりも高度なレベルでベクトルと微分積分を使って、物体の運動 (減衰・強制振動、振り子運動) を理解する (2) 振動現象を基に理解できる波動現象の基礎事項を理解する の二つです。 なお、理系の大学生には「物事を理路整然と理解すること」が必要になりますが、その理路整然とした理解を実行する具体例としても、力学は好都合です。	運動方程式に基づいて、減衰振動と強制振動を説明できる。						25						25						
				角運動量と力のモーメントの定義をベクトルの外積を使って説明できる。						25								25				
				単振り子の運動方程式を解き、その運動を説明できる。						25								25				
				波動の基本的な性質を説明できる。						25								25				
				授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100			
				情報系	情報処理 1	2	1	Windows PC の基礎知識を身につけることを目的として、PC のハードウェア構成から大学内の PC・ネットワークを活用する方法および電子メールやレポート作成、卒業研究などで活用するソフトウェア (Microsoft Office) を用いた文書作成、表計算・グラフ作成、プレゼンテーションを学ぶ。	コンピューターのハードウェアの基礎を説明できる。										10		10	
電子メールの作成、送信、受信ができる。																20		20				
Word を用いて文章の作成ができる。																20		20				
Excel を用いてグラフの作成や計算ができる。																30		30				
PowerPoint を用いてプレゼンテーションができる。																20		20				
授業科目の貢献度	0	0	0						0	0	0	0	0	0	0	100	0		100			
情報処理 2	2	2	調査から得られたデータを情報を Excel で整理・分析し、その結果を Word で要約すると共に、PowerPoint で分かりやすく相手に伝えるためのより高度な技術を学ぶ。また、調査の目的設定と方法についても学ぶ。		統計処理の基礎が理解できる。										10		10					
					Excel を用いてデータ処理ができる。											30		30				
					Excel および Word を用いてデータ処理の結果を文章に作成できる。											30		30				
					データ処理の結果について、PowerPoint を用いてプレゼンテーションができる。											30		30				
					授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0		100			

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
			必修	選択	自由				a		b			c				d				合	計																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
									学科 (専攻) の学位授与の方針																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
									a 1	a 2	b 1	b 2	b 3	c 1	c 2	c 3	c 4	d 1	d 2	d 3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
専門科目群	基幹科目	かおりデザイン入門セミナー	1		1	かおりデザイン専攻の専門科目への関心や興味を喚起する導入科目であり、学生と教員および学生間の良好なコミュニケーション形成の場でもある。授業は見学会、講演会とスポーツを通じた交流などを行うとともに、にかおり・かおり分野の将来像が早い段階から描けるようキャリアガイダンスを行う。また、面談を行い、学習状況等の確認を行う。	にかおり・かおりの学習に関心、興味が抱ける。											30		30																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
							学生と教員、学生同士の良好なコミュニケーションを形成する。												20		20																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
							大学のさまざまな施設を有効に活用できる。												20		20																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
							有意義な学生生活とするための目標を立てることができる。												30		30																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
							授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	100																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
							キャリアデザインを行なう上での基本的な考え方を説明でできる。												20		20																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
		キャリア開発１	1		2	1 年次生からの「自己発見」の取り組みが、自分のキャリア形成に極めて重要であることを実践的に学ぶ。また、自分の学生生活を自己責任において確立していく大切さを学ぶと同時に、自ら発見し、自ら語ることの重要性を学ぶ。	自分自身で学生生活を創ることの大切さを説明できる。											10		10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
							大学で学ぶ意味を考え、目標を検討することができる。												20		20																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
							大学での学びが、自分の将来に繋がることを理解できる。												20		20																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
							社会生活を営む上で重要となる他者と協力し、関係を構築することの大切さを理解できる。									5	15		30																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
							授業科目の貢献度	0	0	0	10	0	0	0	0	0	5	85	0	100																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
							自分を知り、自分を表現できる。											20		20																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	キャリア開発２	1		3	自分の個性、生き方、将来を見つめながら、次に必要な「意識と自覚」を修得する。また、自分を活かすための「自己現状分析」を行うことにより、将来を見据えた具体的計画を立案し、目標達成までのプロセスの重要性とその実行方法について学ぶと同時に、自己表現できる能力を身に付ける。	他者とかわり、関係を構築できる。											10		10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
						職業観を養い、表現できる。												10		10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
						自分の将来の目標・方向性を考え、行動計画の立案ができる。									10	10		30																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
						目標に向けて能動的に行動する姿勢を持つ。									20			30																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
						授業科目の貢献度	0	0	0	20	0	0	0	0	0	10	70	0	100																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
						プロジェクト	プロジェクト演習１	2		2	この科目は、3 期に開講されるプロジェクト演習 2 の基礎になる科目で、学生個人で成果物を作成する力を身につけるものである。この科目では、かおりデザイン専攻で学ぶ内容に関連するテーマを設定し、学生が自分自身で問題を抽出する。資料調査・問題点抽出・提案に至るプロセスを通じて各個人の成果物を作成し発表するのに加え、発表会において問題意識をもって他の学生のプレゼンテーションを聞き、適切な質問を行うことができる力を養う。	かおりデザイン専攻の研究動向が理解できる。						5	5	15				25																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	にかおり・かおりの評価方法が理解できる。												10						10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	調査結果から問題点を抽出できる。																5	5	10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	問題点を踏まえ、新たな提案ができる。															10		5	10	35																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	調査結果を分かりやすく発表できる。																5	5	10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	発表を聞き、適切な質問ができる。																5	5	10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	授業科目の貢献度	0	0	10	0		0	0	15	5	25	0	20	25	100																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
	プロジェクト演習２	2		3	かおりデザイン専攻で学ぶ各分野における課題を取り上げ、それらの課題について調査し、データ整理、分析を行う。得られた結果を基にして考察した内容を発表する。		にかおり・かおりの測定・評価方法が理解できる。						20						20																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
							にかおり・かおりの測定・評価の課題を理解できる。						10	5	15				30																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
							目的を明確に定め、調査計画を立てることができる。										5	5	10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
							調査結果を分かりやすくまとめることができる。								15		5	5	25																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
							得られた結果を基にして考察した内容を分かりやすく説明できる。										5	5	15																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
						授業科目の貢献度	0	0	5	0	0	0	30	5	30	0	15	15	100																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	数値解析	数値解析１	2	1	1	1	1	尺度の種類を正しく認識することができる。						5				15		20																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
								データの代表値を正しく算出することができる。						5					15		20																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
								データの分布を正しく把握することができる。						5					15		20																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
								相関係数について正しく求めることができる。						5					15		20																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
								母集団と標本を正しく認識することができる。						5					15		20																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
								授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	25	0	0	0	75	0	100																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
		数値解析２	2	2	2	2	2	確率の性質について正しく認識する。						5				15		20																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
								正規分布の性質について正しく認識する。						5					15		20																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
								区間推定を正しく行うことができる。						5					15		20																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
								検定を正しく行うことができる。						5					15		20																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
								1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1</

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針													
			必修	選択	自由				a		b			c				d				
									a 1	a 2	b 1	b 2	b 3	c 1	c 2	c 3	c 4	d 1	d 2	d 3	合 計	
																						学科 (専攻) の学位授与の方針
専門科目群	基幹科目	住居学	2		1	住居の役割が理解できる。									20				20			
						住宅・住生活の変遷が理解できる。									10				10			
						住環境のあり方が理解できる。									5			5	10			
						住居の持つべき役割、住居の歴史的変遷、計画、室内環境、構造と安全、維持管理などの基礎知識を学ぶ。また、生活の中で不快に感じられているにの特性や対策の基本的な考え方、香りの活用、活用時の注意点を学び、住居内での適切な香りの使用方法を修得する。						5	5	5				15				
						住居内でのにおいの発生原因を説明できる。						5	5	5				15				
						住居内での臭気対策の基本的な考え方について説明できる。							10	5				15				
						暮らしの中で適切なかおりの活用例を説明できる。						5	5				5	15				
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	15	25	50	0	0	10	100			
		生活環境学 1	2	1	室内空気汚染物質について説明できる。				5			5	5			5	20					
					室内空気質の諸問題を説明できる。							5	10			5	20					
					室内の空気浄化の考え方を説明できる。							5	10			5	20					
					換気方式の種類について説明できる。					5			10			5	20					
					必要換気量を求めることができる。					5			5		5	5	20					
					授業科目の貢献度	0	0	0	0	5	10	0	15	40	0	5	25	100				
		生活環境学 2	2	2	温熱環境指標について正しく認識できる。									10			10	20				
					音の基本的特性について正しく理解できる。												10	20				
					光の基本的特性について正しく認識できる。												10	20				
					色の表し方や性質について正しく理解できる。												5	15				
					生活環境の心理的效果について正しく理解できる。								10	10			5	25				
					授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	10	50	0	0	40	100				
		かおり成分と調香 1	2	1	基礎的な五感の原理について説明できる。							10	10					20				
					におうという現象を理解し、にのに関連する化学物質の基本的構造を説明でき、さらに嗅覚メカニズムと関連づけて説明できる。							10	10	5				25				
					化学物質の様々な特性を理解し、におう物質とにおわない物質を説明できる。					5		5	10	5				25				
					生活空間で、多種多様なにおい物質（化学物質）が発生するメカニズムを説明できる。								10	10			10	30				
					授業科目の貢献度	0	0	0	0	5	0	25	40	20	0	0	10	100				
		かおり成分と調香 2	2	2	植物性香料の香調を理解できる。									10			5	15				
					匂いの表現および分類について理解できる。								10	10			5	25				
					代表的な植物性香料の香り成分について理解できる									10			5	15				
					天然香料の微量鍵香気成分について理解できる。									10			5	15				
					香り成分の化学構造と名称について理解できる。									15			5	20				
					光学活性な香料化合物について理解できる。									5			5	10				
					授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	10	60	0	0	0	30	100				
		嗅覚の特性	2	2	においを感じる仕組みを説明できる。							20						20				
					順応、慣れ、疲労について説明できる。								15	5				20				
					嗅覚異常について説明できる。								15	5				20				
					においを感じる仕組み、順応、慣れ、疲労、個人差などの嗅覚の特性、におい物質の特性について学ぶ。					5	5	5	5					20				
					におい物質濃度とにの感覚強度の関係を説明できる。						5	5	5	5				20				
					授業科目の貢献度	0	0	0	0	5	10	60	20	5	0	0	0	100				
		嗅覚測定法	4	3	嗅覚測定を行う際の注意点を説明できる。							10	10					20				
					においを評価するパネルの選定方法を説明でき、実行できる。								15	5				20				
					三点比較式臭袋法が説明でき、実行できる。								15	5				20				
					臭気濃度を算出できる。						5	5	5					15				
					臭気強度、快・不快度、容認性の評価方法が説明でき、実行できる。						5	5	5					15				
					においの質を評価する際の表現用語を挙げることができる。								10					10				
					授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	10	60	30	0	0	0	0	100				

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針													
			必修	選択	自由				a		b			c				d			合計	
									学科(専攻)の学位授与の方針													
									a 1	a 2	b 1	b 2	b 3	c 1	c 2	c 3	c 4	d 1	d 2	d 3		
基幹科目	心理学概論	2	1	パーソナリティという概念、それをとらえる枠組みと方法を理解できる。								20				20						
				欲求と動機、感情の特徴や機能を理解できる。							20					20						
				発達概念、発達過程の様相を理解できる。							20					20						
				学習・記憶の基本的メカニズムについて理解できる。					10	10						20						
				感覚と知覚の違い、および知覚機能の特徴について理解できる。					10	10						20						
				授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	20	80	0	0	0	0	100					
	消脱臭原理	2	4	化学反応による臭気物質の除去メカニズムを説明できる。								15	5			5	25					
				臭気物質の物理的な除去メカニズムを説明できる。							15	5				5	25					
				微生物の作用による脱臭メカニズムを説明できる。							15	5				5	25					
				感覚的な消臭メカニズムを説明できる。							15	5				5	25					
授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	60	20	0	0	20	100									
専門科目群	キャリア開発3	1	4	自己分析を更に展開し、社会が求めている「将来の経済を担う産業人材の確保・育成を促進するための能力」や「職場や地域社会の中で、多様な人々とともに仕事を行っていく上で必要な基礎能力」を学び、今後の就職活動に向かってチャレンジする心構えを学ぶ。	社会で生きていくために、社会を知り、将来に向けて自分の人生を切り拓いていく考え方や基礎力を身につける。				10					15	25		50					
				職場や地域社会の中で、多様な人々と共生するために必要となる人間力を身につける。				10						15	25		50					
				授業科目の貢献度	0	0	0	20	0	0	0	0	0	30	50	0	100					
	キャリア開発4	1	5	キャリア開発3に続いて、社会が求めている「将来の経済を担う産業人材の確保・育成を促進するための能力」や「職場や地域社会の中で、多様な人々とともに仕事を行っていく上で必要な基礎能力」を体験を通して学び、今後の就職活動に向かってチャレンジする心構えを学ぶ。	自分自身の将来像を描き、説明できる。						10	20	10	10	10	10	70					
				社会で活躍するために必要な力を理解し、身につけている。						10				10	10		30					
				授業科目の貢献度	0	0	0	10	0	0	10	20	10	20	20	10	100					
	プロジェクト演習3	2	4	かおりデザインに関する研究に関連する課題を自ら抽出できる。							10	20	10	5	10	5	60					
				本授業では、かおりデザイン専攻で学ぶ各分野の研究および産業界の動向などを学び、各自が具体的なテーマを設定し、そのテーマについて調査し、調査した内容を発表する。	課題の調査、データ整理、分析を自ら実施できる。					5				5	5	5	20					
				得られた結果を基にして考察した内容を報告書にまとめ、その概要を説明できる。				5					5	5	5	20						
				授業科目の貢献度	0	0	5	0	0	5	10	20	10	15	20	15	100					
	プロジェクト演習4	2	5	かおりデザインに関する研究課題を複数抽出し、関連づけることができる。							10	10	10	10	5	5	50					
				本講義では、調査方法、解析方法を身につけるとともに、プレゼンテーション能力を向上させることを目的として、かおりデザイン専攻で学ぶ各分野の研究および産業界の動向などを学び、各自が具体的なテーマを設定し、そのテーマについて調査し、調査した内容を発表する。	課題についての高度な調査、データ整理、分析を自ら実施できる。				5					5		10						
				得られた結果を基にして考察した内容を報告書にまとめることができる。				5					10	5	5	25						
				報告書の内容の詳細を分かりやすく説明できる。									5	5	5	15						
				授業科目の貢献度	0	0	5	0	0	5	10	10	10	25	20	15	100					
	建築・インテリア図法実習1	2	1	正確に線を引くことができる。										20			20					
				線の種類とその意味が説明できる。										20			20					
				表示記号が説明できる。										20			20					
図面を手順どおりに描くことができる。													20			20						
簡単な透視図を描くことができる。													20			20						
授業科目の貢献度				0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	100						
建築・インテリア図法実習2	2	2	壁や柱など建築の基本的な寸法の把握ができる。									10			10							
			平面図を適切に描くことができる。									20			20							
			断面図を適切に描くことができる。									20			20							
			効果的な建築模型を制作できる。									20			10	30						
			建築作品の図面や写真を分かりやすく一枚のポスターにまとめ、発表できる。									20				20						
			授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	90	0	0	10	100						
かおりデザイン演習1	2	2	CADソフトの概念を理解する。									5			15	10	30					
			CADソフトの基本操作ができる。										5			15	15	35				
			CADソフトを使って簡単な図面を書くことができる。										5			15	15	35				
			授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	15	0	0	45	40	100						

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針														
			必修	選択	自由				a		b			c				d					
									a 1	a 2	b 1	b 2	b 3	c 1	c 2	c 3	c 4	d 1	d 2	d 3	合 計		
																						学科 (専攻) の学位授与の方針	
専門科目群	展開科目	建築CAD 1				3	2次元CADの基本的な操作方法について学ぶ。	2次元CADソフト「VectorWorks」の各種設定ができる。									20				20		
								2次元CADソフト「VectorWorks」の基本操作ができる。										20				20	
								2次元CADソフト「VectorWorks」を使用して、各種図形を描くことができる。										20				20	
								2次元CADソフト「VectorWorks」を使用して、平面図を描くことができる。										20				20	
								2次元CADソフト「VectorWorks」を使用して、断面図を描くことができる										20				20	
								授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	100	
		建築CAD 2				4	3次元CADの基本的な操作方法について学ぶ	VectorWorksの3Dコマンドの使用法を習得できる。										20				20	
								VectorWorksの3Dモデリングの手順を習得できる。										20				20	
								VectorWorksの各種柱状体、回転体、ブーリアン演算等の3Dコマンドの使用法を習得できる。										20				20	
								VectorWorksにより具体的な物をモデリングすることができる。										20				20	
								RenderWorksにより美しいレンダリング処理ができる。										20				20	
								授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	100	
		インテリア計画 1				2	この授業ではインテリア計画の基礎を学ぶ。授業を通じて、インテリアを計画・設計する上で求められる基礎的な知識の習得を目指す。	近・現代のインテリアの歴史について流れを理解することができる。										20				20	
								人間の身体・行為にまつわる寸法について理解することができる。										20				20	
								近・現代の代表的な家具のデザインについて理解することができる。										20				20	
								住まいの計画・設計の基本を理解することができる。										20				20	
								インテリアの基本的な設計図書（平面図、断面図、展開図等）について理解することができる。										20				20	
								授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	100	
		インテリア計画 2				2	この授業ではインテリア計画の基礎を学ぶ。商業空間のインテリアを計画・設計する上で求められる基礎的な知識の習得を目指す。	インテリアデザインの空間構成、生成について理解することができる。										10				10	
								インテリアと安全性の関係について理解することができる。										5	10		5	20	
								インテリアのつくられかたについて理解することができる。										10	10		10	30	
								商業空間などの計画・設計の基本について理解することができる。										5	10		10	25	
								屋外環境デザインについて理解することができる。										5			10	15	
								授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	35	30	0	35	100		
		建築遺産 B				2	4	西洋の建築について古代オリエント以来 5000 年の歴史を様式にもとづいて講義する。	古典系建築の特徴を説明できる。										30			30	
									中世系建築の特徴を説明できる。										30				30
									古典系建築と中世系建築から、西洋建築史のおおよその流れを述べることができる。										20				20
									各様式の相違を理解できる。										10				10
									木造とは異なる、石造建築の構造的な特徴を述べることができる。										10				10
									授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	100
ランドスケープデザイン				2	3	日本各地で展開されている村おこし、まちおこし、街づくりの知見を学ぶ。	欧州諸国の都市再生の事例をいくつか説明できる。						5			10			5	20			
							公共交通とまちづくりの事例をいくつか説明できる。									10				5	15		
							環境の時代におけるまちづくりを説明できる。										10			5	15		
							緑とまちづくりについての事例をいくつか説明できる。										10			10	20		
							まちづくりについて自分なりの主張を述べることができる。										10	10		10	30		
							授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	5	0	50	10	0	35	100			
力と形演習				2	1	力の作用と構造物の変形を体験的に学び、釣合い式や反力等の初歩的な計算を修得する。	力の釣合いについて説明できる。						10	5					15				
							単純ばりの反力について説明できる。						10	5						15			
							トラスの仕組みと部材に働く力について説明できる。						10	5	5					20			
							はりに力が作用したときのたわみについて説明できる。						10	5	5					20			
							力のモーメントについて説明できる。						10	5						15			
							力の釣合いから単純な構造の反力を計算で求めることができる。						10	5						15			
							授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	60	30	10	0	0	0	0	0	100		

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針													
			必修	選択	自由				a		b			c				d				
									a 1	a 2	b 1	b 2	b 3	c 1	c 2	c 3	c 4	d 1	d 2	d 3	合 計	
																						学科 (専攻) の学位授与の方針
専門科目群	展開科目	構造力学 1	2	2	2	静定はりおよび静定ラーメンの解法、応力度とひずみ度、断面の性質を学ぶ。	各種支持状態とそこに生ずる支点反力を理解し、これを求めることができる。							15					15			
							骨組の安定・不安定、静定・不静定の意味を説明できる。						15							15		
							骨組に生ずる応力や変形を説明できる。						15							15		
							静定はりの曲げモーメント分布、せん断力分布を求めることができる。						20							20		
							静定ラーメンの曲げモーメント図、せん断力図、軸方向力図を作図できる。						20							20		
							曲げモーメント図、せん断力図の意味やその相互関係を説明できる。						15							15		
							授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	100	
							構造力学 2	2	3	静定トラスの解法、梁のたわみ、不静定構造物の解法原理について学ぶ。	静定トラスの解法を理解し、部材応力を求めることができる。						20					
		応力度とひずみ度、およびその関係について説明できる。										15							15			
		断面 1 次モーメント、断面 2 次モーメントの意味を理解し、これらを算出することができる。										15							15			
		はりの断面に生じる曲げ応力度およびせん断応力度を計算し、断面設計を行うことができる。										20							20			
		はりのたわみを計算できる。										15							15			
		応力法を用いて不静定はりの応力を求めることができる。										15							15			
		授業科目の貢献度	0	0	0	0					0	0	100	0	0	0	0	0	0	100		
		建築の仕組み	2	1	木造住宅の仕組み、RC 造の原理および S 造の仕組みを模型製作を通して学ぶ。	建築物に作用する荷重、外力を説明できる。						25						25				
						アーチ、軸組、壁、ブレース、トラス等の構造形式を説明できる。						25							25			
						模型製作を通じ、平面図、立面図等で建築のしくみを説明できる。								15		5	10		30			
						建築の構成を理解し、建築技術の巧みさが説明できる。							10	10					20			
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	50	10	25	0	5	10		100		
						建築構法	2	2	建築物の構法面を中心に建築を理解するために必要な基本的な知識を学ぶ。	建築物の構造方式の種類と構法が説明できる。						15						15
		建築物に作用する荷重、外力にはどのようなものがあるか説明できる。										15							15			
		木構造の基本的な説明ができる。										15							15			
		鉄筋コンクリート構造、鉄骨鉄筋コンクリート構造の基本的な説明ができる。										15							15			
		鉄骨構造の基本的な説明ができる。										15							15			
		地質調査の方法を理解し、説明できる。											15						15			
		建築物の各部位の構成について説明できる。											10						10			
		授業科目の貢献度	0	0	0					0	0	0	75	25	0	0	0	0	0	100		
		建築材料	2	3	建築材料の木、鉄、コンクリートの性質と用途および特徴について学ぶ。	コンクリート構成材料の性質を説明できる。							20					20				
						コンクリートの性質を説明できる。							20						20			
						鉄筋の性質を説明できる。							20						20			
						構造用材と非構造用材とに分けて、主に構造用材として使用される木の性質を説明できる。							20						20			
						建築材料関係専門用語 300 語が説明できる。							20						20			
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	100		
						建築生産 1	2	3	建築生産 1 は建築施工計画と工程管理および地下工事について学ぶ。	請負契約と見積りの方式について説明できる。											10	10
		工事計画の手順について説明できる。										5	5				5		15			
		施工管理の基本的事項について説明できる。															10		10			
		工程表の種類・作成手順について説明できる。										5	5				5		15			
		仮設工事計画の基本的事項について説明できる。															10		10			
		地下工事時の調査について説明できる。											5				5		10			
		地下工事の工法について説明できる。										5	5				5		15			
		基礎・杭工事について説明できる。										5	5				5		15			
		授業科目の貢献度	0	0	0					0	0	0	20	25	0	0	0	55		100		

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針																
			必修	選択	自由				a		b			c				d							
									a 1	a 2	b 1	b 2	b 3	c 1	c 2	c 3	c 4	d 1	d 2	d 3	合 計				
																						学科(専攻)の学位授与の方針			
専門科目群	展開科目	建築法規	2		6	建築に関する代表的法律である都市計画法、建築基準法と建築士制度についての基礎知識を学ぶ。	建築法規の歴史が説明できる。									20			20						
						法文解釈ができる。													20						
						建築基準法の単体規定が説明できる。													20						
						建築基準法の集団規定が説明できる。													20						
						建築士法について説明できる。													20						
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	100						
		建築設備	2		6	建築に導入される空調・給排水・防災・ガス・電気の各設備について学ぶ。	建築設備の目的と分類を説明できる。										10			10					
						空気調和の目的と設計目標を説明できる。													15						
						空気調和設備の各方式の特徴を簡単に説明できる。													15						
						冷暖房熱負荷の概要を説明できる。													20						
						給排水・衛生設備（給排水、衛生器具、消火）に関する重要な事項を説明できる。													20						
						電気設備（照明、動力、変電）に関する重要な項目を説明できる。													20						
		授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	100									
		色彩論	2		3	色彩の基礎知識を説明できる。													10	10					
						色彩効果が理解できる。									10				10	20					
						色彩の基礎的知識の習得とそれを日常生活やビジネスに生かす視点を身につける。													25	25					
						身の回りの色彩に対する考察ができる。													20	20					
						カラーマーケティングの視点が持てる。									15				10	25					
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	25	0	0	0	75	100						
		生活環境評価演習1	2		4	主に室内の雰囲気評価および、光環境と空気環境の測定・評価方法を学び、室内環境の測定・評価を行い、データの解析方法を習得する。	検知管を用いて室内空気汚染物質の測定ができる。										5		5	10	20				
						照度の測定ができる。													5	10	20				
						室内環境を測定し、基準値等と比較し、評価できる。							5		5				5	5	20				
						S D法を用いた評価ができる。							5	5					5	5	20				
						換気量の算出ができる。							5		5				5	5	20				
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	15	5	20	0	0	25	35	100						
		生活環境評価演習2	2		5	生活環境における温熱環境および音環境に着目し、生活環境における温熱環境および音環境の実態を把握すると共にそれぞれの環境評価および改善手法について学ぶ。	温熱環境の各要素の影響について説明ができる。										5		5	5	15				
						温熱環境の実態の評価ができる。													5	5	5	20			
						温熱環境の簡単な改善方法について説明できる。													5	5	5	20			
						騒音環境の人体影響について説明できる。													5	5	5	15			
						騒音環境の実態が理解でき、簡単な騒音防止対策について説明できる。							5		5				10	5	5	30			
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	5	0	25	0	20	25	25	100						
		生活環境評価演習3	4		6	においが人の心理・生理に与える影響を客観的に評価する方法を用いた演習を行う。	心理評価ができる。										5	10	5		5	25			
						鎮静効果・興奮効果を測定できる。													5	10		5	25		
						においの心理影響について理解できる。													5	5	5		5	25	
						データ分析を行い、結果を評価できる。													5	5	5		5	25	
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	20	30	10	10	10	20	100						
		食品とかおり	2		3	フレーバーの種類、適用について学びとともに、食品におけるかおりが果たす役割について学ぶ。	フレーバーの素材について説明できる。										5		15			20			
						味と香りの関係について理解できる。													15	5	5			25	
						香料の食品への利用について説明できる。														10	10			25	
						食品において香りが果たす役割について説明できる。														10	5	5		30	
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	30	20	35	0	0	15	100						
		かおり成分と調香3	2		3	基礎素材となる合成香料について、製造法の概要を学ぶとともに、構造活性相関などを用いた新規香料の開発、安全性テストおよび香気特性の評価法を学び、調合の実践のための基礎知識を修得する。	代表的合成香料について香りを記憶し理解できる。											10			5	15			
						調合香料の構成および香りのタイプについて理解できる。															10			5	15
						調合香料の利用について理解できる。															10	5			20
						香料の機能性について理解できる。														5	10	5			25
						香料の安全性に関する法律について理解できる。															5	5			15
						香料 GMP について理解できる。															5				10
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	5	25	40	0	0	30	100						

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針													
			必修	選択	自由				a		b			c				d				
									a 1	a 2	b 1	b 2	b 3	c 1	c 2	c 3	c 4	d 1	d 2	d 3	合 計	
																						学科(専攻)の学位授与の方針
専門科目群	展開科目	かおり成分と調香4	2		4	調香技術を取得し、香料の品質確保と安全性についての知識を取得する。	香料の取り扱いの仕方を説明できる。									15			5	20		
							一般的香料素材の特性を説明できる。								5	5			5	15		
							基本的な香りを嗅ぎ分けることができる。						5		5				5	15		
							基本的香りアコードのとり方を説明できる。							10	5				5	20		
							調香の基本的考え方を説明できる。						10	5	5	5		5	30			
							授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	15	20	35	5	0	25	100		
		におい・かおり測定演習1	4		4	においセンサー、におい識別装置、検知管の使用方を学び、においの測定法を修得する。	においの機器測定の長所と短所が理解できる。					5	10	5						20		
							においの測定において適切な機器の選定ができる。				5	10	5						20			
							においセンサーが正しく使用できる。				5	10	5						20			
							におい測定装置の内容を理解し、使用できる。				5	10	5						20			
							検知管を用いて臭気物質濃度の測定ができる。				5	5	5			5			20			
							授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	25	45	25	0	0	5	0	100		
		におい・かおり測定演習2	4		5	悪臭防止法で定められている特定悪臭物質の分析方法を学ぶ。 また、ガスクロマトグラフ、吸光度計の測定原理を学ぶ。	ガスクロマトグラフの原理が理解できる。						20							20		
							吸光度計の原理が理解できる。						10							10		
							ガスクロマトグラフの使用方が理解できる。						15							15		
							吸光度計の使用方が理解できる。						10							10		
							大気試料の前処理方法が理解できる。						15							15		
							測定物質ごとの分析方法の違いが理解できる。						15	10	5					30		
		授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	85	10	5	0	0	0	0	100						
		におい・かおり測定演習3	4		6	ガスクロマトグラフ質量分析計、高速液体クロマトグラフ、におい嗅ぎガスクロマトグラフ等を用いて様々なにおい成分の分析方法を学ぶ。	ガスクロマトグラフ質量分析計の原理が理解できる。						25							25		
							高速液体クロマトグラフの原理が理解できる。						25							25		
							におい嗅ぎガスクロマトグラフの原理が理解できる。						25							25		
							各化学分析機器に適した用途が理解できる。						25							25		
							授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	100		
							かおりデザイン演習2	2		3	空間にかおりを活用する上で必要な知識として、人間と環境の関係から室内、建築環境の安全性、快適性を実現するために必要な人体・動作寸法、知覚・心理、行動などの領域を演習を通して学ぶ。また、子ども、高齢者への対応、住宅内事故などについても知識を深める。	人体・動作寸法から安全性を考慮した空間のあり方が理解できる。					5	5	5	5		
		行動を考慮した安全性、快適性を実現するための空間のあり方が理解できる。												5	5	5			5	20		
子ども、高齢者に配慮した空間のあり方が理解できる。													5	5	5		5	20				
心理影響を考慮したかおり空間デザインのあり方が理解できる。													5	5	10	5	10	35				
授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	5						5	20	20	20	5	25	100				
かおりデザイン演習3	2		4	においをはじめとした人を取り巻く環境要素は、常に何らかの形で人に刺激を与えている。このため、人に刺激を与えて反応や評価を把握する手法は、人と環境の関係を把握するための有効な手法と言える。本講義では、におい刺激を念頭に置いて、心理評価手法及び生理反応測定手法に関する知識を学ぶ。また、演習を通してにおいの容認性と許容レベルについて考察する。	心理評価のデータ処理を理解できる。											5	5	5			5	20
					眼球運動と心理の関係が理解できる。								5	5			5	15				
					色彩の心理効果が理解できる。								5	5			5	15				
					聴覚刺激の物理量と心理量の関係が理解できる。								5	5			5	15				
					味覚と心理の関係について理解できる。								5	5			5	15				
					感覚的な情報の時間的要素と心理の関係が理解できる。								5	5	5		5	20				
授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	5	30	30	5	0	30	100									
かおりデザイン演習4	2		5	人を取り巻く環境要素は、それぞれ同時に人に刺激を与えている。人と環境の関係を総合的に把握できる手法は多種多様である。各手法の長所・短所・解析法・注意点などに関する知識は、目的に応じた適切な手法の活用につながる。また、刺激量の測定値から環境の良し悪しを判断し、改善策が検討できる基礎知識を学ぶことは重要である。本講義では、演習を通して総合的に安全で快適な環境を創造できる力を身につけていく。最終的には、得られた成果を発表する。	空間の安全性、快適性における心理評価法を理解できる。						5	10				5	20					
					空間のにおい・かおりについて適切な測定方法が理解できる。							5	10				5	20				
					空間の安全性、快適性におけるにおい・かおりの評価基準を理解できる。							5	5		5	5	5	25				
					空間特性を考慮した安全性で快適な空間のあり方が理解できる。								10	5	10	5	5	35				
					授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	15	35	5	15	10	20	100				
					かおりデザイン演習5	2		6	本講義では、かおり空間デザインの提案ができる力を身につける。かおり空間デザインでは、空間の臭気を制御し、様々なかおりの特性を活かし、その空間の用途から空間に相応しいかおりを活用することで、嗅覚だけでなく、視覚、聴覚、触覚、味覚の五感による快適な空間・環境を創造を目指す。目的に合うかおり空間をデザインし、その環境が維持・管理ができる力を身につける。	におい・かおりと五感の関係が理解できる。						5	15	5			5	30
空間特性を考慮した臭気制御方法が理解できる。												5	5	5			5	20				
空間の特性ごとの快適なかおり空間の維持管理方法が理解できる。													5	5	5	5	5	25				
空間の特性ごとの快適なかおり空間のあり方が理解できる。														5	5	5	5	25				
授業科目の貢献度	0	0	0	0						0	0	10	30	20	10	10	20	100				

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針													
			必修	選択	自由				a		b			c				d				
									a 1	a 2	b 1	b 2	b 3	c 1	c 2	c 3	c 4	d 1	d 2	d 3	合 計	
																						学科(専攻)の学位授与の方針
専門科目群	展開科目	アロマテラピー演習	2	5	実際に精油の香りを嗅いで体験し、精油の抽出方法や歴史、精油を選択する際の情報として効能や禁忌について正しい知識を身に付ける。	アロマテラピーの意味を説明できる。							10	10			5	25				
						アロマテラピーの歴史を説明できる。							10	10			5	25				
						アロマテラピーの注意点が理解できる。							10	10			5	25				
						アロマオイルの効能が理解できる。							10	10			5	25				
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	40	40	0	0	20	100			
		脱臭性能評価演習	2	5	様々な消脱臭製品の性能を評価する方法を学び、演習を通して、その除去率の算出方法を取得する。	空気清浄機の脱臭性能評価方法について理解できる。						10	5	5				20				
						芳香剤の効果の評価方法について理解できる。						10	5	5				20				
						消臭剤の効果の評価方法が理解できる。						10	5	5				20				
						消脱臭製品の脱臭性能を評価できる。						5	5	5	5			20				
						脱臭効率の計算ができる。						10	5			5		20				
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	45	25	20	5	5	0	100			
		悪臭防止法	2	4	規制地域、規制値の決定、測定データの解釈、法を用いて行えるパフォーマンスの限界、現実問題との接点など実例を学ぶことによって法規制の実態を学ぶ。	悪臭防止法が制定された理由(背景)を説明できる。							10				10	20				
						悪臭防止法の各条文の意味するところを理解できる。							10					10				
						規制地域及び規制値について理解できる。						5	10					15				
						臭気判定士の役割を理解できる。						5	10					15				
						特定悪臭物質規制(機器分析法)と臭気指数規制(嗅覚測定法)を理解できる。						5	15					20				
						代表的な脱臭技術を理解できる。							20					20				
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	15	75	0	0	0	10	100			
		インターンシップ (学外研修)	2	集中	企業におけるインターンシップを行う。	実習先企業の業務を理解し、におい・かおり業界での位置づけを説明できる。								5	5	10	5	25				
						実務で発生する問題点と解決策の一例を説明できる。									5	5	10	5	25			
						机上の知識と現実の問題との格差を説明できる。									5	5	10	5	25			
						将来の進路に対する自分の考え方を述べることができる。									5	5	10	5	25			
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	20	20	40	20	100			
		卒業研究	プロジェクト演習5	2	6	プロジェクト演習4に引き続き、調査手法、解析手法を身につけるとともに、プレゼンテーション能力を向上させることを目的として、かおりデザイン専攻で学ぶ各分野の研究および産業界の動向などを学び、各自が具体的なテーマを設定し、そのテーマについて調査し、調査した内容を発表する。	卒業研究の基礎となる理論・学説をより深く理解できる。										10	20	30			
							卒業研究の方法をより深く理解できる。										10	5	5	20		
							得られた結果について適切なデータ分析を行い、既往研究等と照らし考察した内容を報告書にまとめことができる。									10	10	10	30			
							報告書の内容をプレゼンテーション資料にして示しながら、高度なプレゼンテーション技術を用いて説明できる。									5	5	10	20			
							授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25	30	45	100		
総合セミナー1	2		7	セミナー1と同様、卒業研究と平行して行われる授業である。そのため、授業は卒業研究の研究室単位で行われる。卒業研究では各指導教員の下で研究論文をまとめることになるが、セミナー3でもその基礎となる理論・学説や研究方法などについて授業が行われる。授業の内容は、各卒業研究の指導教員の研究専門分野によって異なる。	卒業研究に関連する理論・学説を理解できる。									20	10	10	10	50				
					卒業研究のまとめ方を理解できる。									15	15	10	10	50				
					授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	35	25	20	20	100				
総合セミナー2	2		8	セミナー2と同様、卒業研究と平行して行われる授業である。そのため、授業は卒業研究の研究室単位で行われる。卒業研究では各指導教員の下で研究論文をまとめることになるが、セミナー3では、卒業論文についての研究成果発表が中心となる。授業の内容は、各卒業研究の指導教員の研究専門分野によって異なる。	卒業研究の内容について論理的に発表できる。								20	10	10	10	50					
					研究成果を根拠を基にわかりやすく表現できる。									15	15	10	10	50				
					授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	35	25	20	20	100				
卒業研究	6		7・8	卒業研究は、これまでの授業を通して知り得た総合情報学の各研究分野の中から、最も興味のある分野を選択し、教員の指導を受けながら研究論文を作成する。	卒業研究に関連する理論・学説を理解できる。								10			10	20					
					研究の目的を達成するために必要な調査・実験を計画できる。									5	5	5	10	25				
					計画にそって研究を実行できる。									5		5	10	20				
					結果を導くためのデータ整理、分析、解析ができる。											10		10				
		得られた成果を卒業論文にまとめることができる。													10	5	15					
		卒業研究の成果を分かりやすく発表できる。													10		10					
		授業科目の貢献度			0	0	0	0	0	0	0	0	20	5	40	35	100					

建築学科

開講科目一覧<人間科学科目群>

区分		授業科目	単位数			毎週授業時間数								備考		
						1年次		2年次		3年次		4年次				
			必修	選択	自由	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期			
人間科学科目群	Aグループ	ファースト・イヤー・セミナ	1			2	[2]							集中・遠隔 集中・遠隔		
		基礎英語セミナ			1	2	[2]									
		英語スキル1	2			2	[2]									
		英語スキル2	2				2	[2]								
		資格英語	2					2	[2]							
		実践英語		1						2						
		英語ライティング		1						2						
		英語プレゼンテーション		1							2					
		中国語入門1		1		2										
		中国語入門2		1			2									
		スポーツ実技A		1		2										
		スポーツ実技B		1			2									
		スポーツと健康の科学A		1						2						
		スポーツと健康の科学B		1							2					
	情報リテラシー概論	1			◎											
	データサイエンス概論	1				◎										
	Bグループ	人間・歴史文化・こころの理解	文学A		2		2		2		2					
			文学B		2			2		2			2			
			哲学A		2			2		2		2				
			哲学B		2				2		2		2			
			人類学A		2				2		2					
			人類学B		2					2			2			
			歴史学A		2		2		2		2					
			歴史学B		2			2		2			2			
			心理学A		2		2		2		2					
			心理学B		2			2			2		2			
			教育原理		2		2									
			教育心理学		2				2							
		国際情勢と社会のしくみ	政治学A		2		2		2		2					
			政治学B		2			2		2			2			
			経済学A		2			2		2		2				
			経済学B		2				2		2		2			
			法学A		2					2		2				
			法学B		2						2		2			
			社会学A		2		2		2		2					
			社会学B		2			2		2			2			
			社会調査法A		2				2		2					
			社会調査法B		2					2			2			
			現代社会論A		2					2		2				
			現代社会論B		2						2		2			
		教育社会学		2				2								
		科学的なものの見方	健康科学A		2		2		2		2					
			健康科学B		2			2		2			2			
			認知科学A		2				2		2					
			認知科学B		2					2			2			
			環境と防災A		2				2		2					
			環境と防災B		2					2			2			
			自然科学概論A		2		2		2		2					
			自然科学概論B		2			2		2			2			
			生物学A		2				2		2					
			生物学B		2					2			2			
			地球科学A		2					2		2				
			地球科学B		2						2		2			
		学問への複眼的アプローチ	課題探究集中講座		2			◎								集中
			課題探究セミナA		2				2		2					
	課題探究セミナB			2					2		2					
	教養総合講座A			2				2		2						
	教養総合講座B			2					2		2					
合計			9	93	1	30	26 [6]	42 [2]	40 [2]	42	42					
			103													

(注) 1. 毎週授業時間数の[]は、再履修者向けに開講することを示す。

区分		授業科目	単位数			毎週授業時間数								備考
						1年次		2年次		3年次		4年次		
			必修	選択	自由	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期	
専門基礎科目群	自然科学系	基礎数学 세미나			1	2	[2]							履修者指定
		基礎理科 세미나			1	2	[2]							
		線形代数 1		2		2								
		線形代数 2		2			2							
		基礎物理 A		2			2							
		基礎物理 B		2					2					
		現代物理学 1						2						
		現代物理学 2				2			2					
		化学基礎 1		2		2								
	化学基礎 2		2			2								
建築学基礎系	数学基礎		2		2	(2)								
	解析学 1		2		2	(2)								
	解析学 2		2			2	(2)							
	解析学 3		2				2	(2)						
	常微分方程式		2					2	(2)					
	力学 1		2		2	[2]								
	力学 2		2			2								
	力学 3		2				2							
情報系	情報処理 1	2			2									
	情報処理 2		2			2								
小計			2	30	6	16	12 (4) [6]	8 (2)	4 (2)	(2)				
			38											
専門科目群	基幹科目	かおりデザイン入門 세미나	1			2								
		キャリア開発 1	1				2							
		キャリア開発 2	1					2						
		プロジェクト演習 1	2				2							
		プロジェクト演習 2	2					2						
		数値解析 1		2		2								
		数値解析 2		2			2							
		住居学	2			2								
		生活環境学 1	2			2								
		生活環境学 2	2				2							
		かおり成分と調香 1	2			2								
		かおり成分と調香 2	2				2							
		嗅覚の特性	2				2							
		嗅覚測定法	4						4					
		心理学概論		2		2								
		消臭原理		2						2				
	展開科目	キャリア開発 3	1						2					
		キャリア開発 4	1							2				
		プロジェクト演習 3	2						2					
		プロジェクト演習 4	2							2				
		建築・インテリア図法実習 1		2		4								
		建築・インテリア図法実習 2		2			4							
		かおりデザイン演習 1		2			2							
		建築CAD 1		2				2						
		建築CAD 2		2					2					
		インテリア計画 1		2			2							
		インテリア計画 2		2				2						
		建築遺産B		2					2					
		ランドスケープデザイン		2				2						
		力と形演習		2		2								
		構造力学 1		2			2							
		構造力学 2		2				2						
建築の仕組み		2		2										
建築構法		2			2									
建築材料		2				2								
建築生産 1		2				2								
建築法規		2							2					
建築設備		2							2					
色彩論		2				2								
生活環境評価演習 1	2						2							
生活環境評価演習 2	2							2						
生活環境評価演習 3		4							4					

区分		授業科目	単位数			毎週授業時間数								備考
						1年次		2年次		3年次		4年次		
			必修	選択	自由	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期	
専門科目群	関連科目	食品とかおり		2				2						集中
		かおり成分と調香 3		2				2						
		かおり成分と調香 4		2					2					
		におい・かおり測定演習 1	4						4					
		におい・かおり測定演習 2		4						4				
		におい・かおり測定演習 3		4							4			
		かおりデザイン演習 2	2					2						
		かおりデザイン演習 3	2						2					
		かおりデザイン演習 4		2						2				
		かおりデザイン演習 5		2							2			
		アロマテラピー演習		2							2			
		脱臭性能評価演習		2							2			
		悪臭防止法		2					2					
		インターンシップ（学外研修）		2								◎		
	卒業研究	プロジェクト演習 5	2								2			
		総合 세미나 1	2									2		
		総合 세미나 2	2										2	
		卒業研究	6									◎	◎	
	小計		53	76		20	24	28	22	16	16	2	2	
			129											
	自由科目	幾何学 1			2					2				
		幾何学 2			2						2			
		数理統計学 1			2					2				
		数理統計学 2			2						2			
		応用解析 1			2			2						
		応用解析 2			2				2					
		応用解析 3			2							2		
		応用解析 4			2								2	
		線形代数 3			2							2		
		代数系入門			2								2	
		工学概論			2					2				
		職業指導 1			2							2		
		職業指導 2			2								2	
	小計				26			2	2	6	4	6	6	
			26											
合計		55	106	32	36	36 (4) [6]	38 (2)	28 (2)	22 (2)	20	8	8		
		193												
(注) 1. 毎週授業時間数の()は、同一科目を複数期に開講することを示す。 2. 毎週授業時間数の[]は、再履修者向けに開講することを示す。 3. 「卒業研究」の単位認定は、8期とする														

本学を卒業するために必要な単位数は124単位とし、各学部学科の定める卒業要件は、別に定める。
4年以上在学し、所定の授業科目を履修し、所定の単位を修得した者に対し学長は卒業を認定する。

【卒業研究履修基準】

卒業研究を履修できる条件は次のとおりです。

学年		必要な単位数(注1)	必要な科目(注2)	
24 生	建築学科 建築専攻	卒業要件として認められる単位のうち、100単位以上修得すること。	建築・インテリア入門 세미나	基礎英語 세미나 基礎数学 세미나 基礎理科 세미나
	建築学科 インテリアデザイン専攻			
	建築学科 かおりデザイン専攻	卒業要件として認められる単位のうち、100単位以上修得すること。	かおりデザイン入門 세미나	
	建築学科 都市空間インフラ専攻	卒業要件として認められる単位のうち、104単位以上修得すること。	都市空間インフラ入門 세미나	

注1) 人間科学科目群の科目については、必修科目と選択科目を合計して27単位を超えることができません。
注2) 基礎英語セミナー、基礎数学セミナー、基礎理科セミナーの3科目については、**卒業研究履修基準の必要単位数**
(建築専攻:100 単位、インテリアデザイン専攻:100 単位、かおりデザイン専攻:100 単位、都市空間インフラ専攻:104 単位)
には含みませんが、合格していることが必要です。
＜不合格者＞4 年次生に進級しますが、卒業研究は履修できません。

【卒業要件】

卒業に必要な要件は次のとおりです。

学年	学科・専攻名	科目群	必要単位数	
24 生	建築学科 各専攻	人間科学科目群	下の要件を全て満たすこと (1)必修科目 9 単位を含め 27 単位 (2)「スポーツ実技A」「スポーツ実技B」の 2 科目 2 単位または、 「スポーツと健康の科学A」「スポーツと健康の科学B」の 2 科目 2 単位 (3)人間・歴史文化・こころの理解から 2 単位以上 (4)国際情勢と社会のしくみから 2 単位以上 (5)科学的なものの見方から 2 単位以上	
	建築学科 建築専攻	専門基礎科目群	必修科目 12 単位	左記条件を満たし 97 単位以上
		専門科目群	以下の要件を全て満たすこと (1)必修科目 50 単位 (2)「構造・材料実験」「建築測量学同実習」の 2 科目から 2 単位 (3)「建築生産 1」「建築生産 2」の 2 科目から 2 単位	
	建築学科 インテリアデザイン専攻	専門基礎科目群	必修科目 18 単位	左記条件を満たし 97 単位以上
		専門科目群	以下の要件を全て満たすこと (1)必修科目 44 単位 (2)「構造・材料実験」「建築測量学同実習」の 2 科目から 2 単位 (3)「建築生産 1」「建築生産 2」の 2 科目から 2 単位	
	建築学科 かおりデザイン専攻	専門基礎科目群	必修科目 2 単位	左記条件を満たし 97 単位以上
		専門科目群	必修科目 53 単位	
	建築学科 都市空間インフラ専攻	専門基礎科目群	以下の要件を全て満たすこと (1)必修科目 4 単位を含め 8 単位以上 (2)「化学 1」「力学 1」の 2 科目から 2 単位	左記条件を満たし 97 単位以上
		専門科目群	以下の要件を全て満たすこと (1)必修科目 44 単位 (2)5 期～6 期の展開科目の選択科目から 16 単位以上	

＜不合格者＞次年度の前期で卒業資格を充足すれば前期末で卒業となります。

【他学部・他学科履修】

工学部及び情報学部専門基礎科目群・専門科目群の単位を修得した場合、修得した単位は、「卒業に必要な単位数」に算入することはできない。

【学科内他専攻履修】

開講科目一覧表における、自専攻に開講していない他専攻科目の単位を修得した場合の取り扱いとは下記のとおりです。

所属学科・専攻名	同一学科内の他の専攻の開講する授業科目の各取扱		
建築学科 建築専攻	インテリアデザイン専攻	授業科目の区分は 選択科目とする。	12 単位を上限として、「卒業に必要な単位数」に算入することができる。
	かおりデザイン専攻		
	都市空間インフラ専攻		
建築学科 インテリアデザイン専攻	建築専攻	授業科目の区分は 選択科目とする。	12 単位を上限として、「卒業に必要な単位数」に算入することができる。
	かおりデザイン専攻		
	都市空間インフラ専攻		
建築学科 かおりデザイン専攻	建築専攻	授業科目の区分は 選択科目とする。	6 単位を上限として、「卒業に必要な単位数」に算入することができる。
	インテリアデザイン専攻		
	都市空間インフラ専攻		
建築学科 都市空間インフラ専攻	建築専攻	授業科目の区分は 選択科目とする。	6 単位を上限として、「卒業に必要な単位数」に算入することができる。
	インテリアデザイン専攻		
	かおりデザイン専攻		

先修条件について

学科共通

カリキュラムを体系的、段階的に進めるために、授業科目によっては履修申請に際して、必要な要件（「先修条件」）がつく科目があります。下記の科目については、先修条件科目の単位の修得が条件になっていますので、先修条件の科目の単位を修得しないと履修申請することができませんので、注意してください。

学年	学科・専攻	区分	先修条件を設定している科目			先修条件科目		
			科目名	期	必選	科目名	期	必選
24 生	建築学科 建築専攻 インテリアデザイン専攻 かおりデザイン専攻	専門基礎科目群	力学2	2	選	力学1	1[2]	選
			力学3	3	選	力学2	2	選
	建築学科 都市空間インフラ専攻	専門基礎科目群	力学2	2	選	力学1	1[2]	選
			力学3	3	選	力学2	2	選
		専門科目群	応用情報処理1	3	選	「基礎情報処理1」かつ 「基礎情報処理2」	1.2	必
			応用情報処理2	4	選	応用情報処理1	3	選
			CAD 演習 2	4	選	CAD 演習 1	3	必
			GIS演習	6	選	GIS基礎	5	選
			3D 設計基礎	5	選	CAD 演習 2	4	選
			VR 演習	6	選	3D 設計基礎	5	選
			構造工学3	3	選	構造工学2	2	必
			都市デザイン実習	5	選	地域・都市計画	3	選
			輸送システム	6	選	交通計画	4	選